

TLP

Trilingual Program

中国語

5年間の軌跡

Chinese

History of the Program for five years

2013-2017

トライリンガル・プログラム (TLP)について

東京大学トライリンガル・プログラム (TLP) は、「グローバルリーダー育成プログラム」(GLP) の一環として、2013年度に教養学部が発足しました。グローバル化が急速に進んだ現代の世界において、国際的に活躍する人材には高度な英語力のもとより、それに加えて少なくとももう一つの外国語の運用能力が求められることが多くなっています。TLP は、こうした人材を育成するために、入学時に一定レベルの英語力を有すると認められる学生（上位一割程度）のうち希望者を対象として、日本語と英語に加え、もう一つの外国語の運用能力を集中的に鍛えるために設けられた教育プログラムです。履修期間は前期課程在学中の1年半で、修了要件を満たした履修生には、修了証が授与されます。また、教養学部後期課程には、TLP修了もしくは同程度の語学力を有する学生を対象に後期TLPが用意されており、ここでは「～語を学ぶ」から「～語で学ぶ」に歩を進め、グローバル化時代にふさわしい、深い教養と鋭敏な問題意識を身につけることを目指します。

TLPは、当初は中国語のみの展開でしたが、2016年度からドイツ語、フランス語、ロシア語、2018年度からは韓国朝鮮語でも展開されることになりました。

(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部ホームページより抜粋)

关于三语尖子班 (Trilingual Program, TLP)

东京大学三语尖子班 (Trilingual Program, TLP) 作为“全球领袖培养项目” (Global Leadership Program, GLP) 的一环于2013年在教养学院创办。在急速全球化的今天，贡献于国际社会的人才除了要具备高度的英语水平之外，还需要掌握至少一门外语并能够熟练地运用它。为了培养这种新型人才，TLP 以入学考试中取得一定英语成绩的学生（大约排名前百分之十）为授课对象，除了日语和英语之外，还集中培养他们另外一门外语的运用能力。选修时间为本科一二年级（称作“前期课程”）中的前一年半。取得规定学分的学生可获得结业证。另外，教养学院后期课程（即本科三四年级阶段）针对TLP结业生和持有同等水平外语能力的学生还开设了后期TLP。它以“从‘学习外语’到‘通过外语学习’”为宗旨，目的是培养高深的人文修养和敏锐的问题意识，以对应全球化时代的各种要求。

TLP当初只开设汉语班，2016年又开设了德语、法语、俄语，韩国朝鲜语于2018年度开办至今。

目次

教養学部長あいさつ 石田 淳	4
グローバルコミュニケーション研究 センター長あいさつ 寺田 寅彦	5
TLP中国語コーディネーターあいさつ	
前期TLP 阿古 智子	6
後期TLP 石井 剛	8

第1章 概況篇

1 カリキュラム一覧	12
2 プログラム紹介	
1 前期TLP	14
2 後期TLP	16
3 海外研修プログラム	
・台湾研修	18
・南京サマースクール	19
・北京スプリングプログラム	20
・後期北京秋季研修	21
4 TLP特別講演会	22
3 修了生の声	
第1期生(2013年入学) 石神 友希穂 竹谷 綾	23
第2期生(2014年入学) 比護 遥 中越 亜理紗	25
第3期生(2015年入学) 磯 尚太郎	27
第4期生(2016年入学) 増田 夏子	28

第2章 実践篇

1 前期TLPの取り組み 王 前	30
2 後期TLP「東西文明学」の取り組み	
1 思想と批評 王 前	34
2 言語と歴史 白 春花	37
3 国際社会科学 李 彦銘	40
4 環境と身体 白 佐立	42

第3章 データ篇

1 年度別履修者数・修了者数	46
2 メディア掲載実績	46
3 沿革	47

目録

教養学院院長致辞 石田 淳	4
国際交流研究中心主任致辞 寺田 寅彦	5
TLP汉语项目负责人致辞	
前期TLP 阿古 智子	6
后期TLP 石井 剛	8

第1章 概況篇

1 课程一览表	12
2 项目介绍	
1 前期TLP	14
2 后期TLP	16
3 出国研修项目	
・台湾研修	18
・南京暑期学校	19
・北京春季项目	20
・后期北京秋季研修	21
4 TLP特別講座	22
3 结业生寄语	
第1期生(2013年入学) 石神 友希穂 竹谷 綾	23
第2期生(2014年入学) 比護 遥 中越 亜理紗	25
第3期生(2015年入学) 磯 尚太郎	27
第4期生(2016年入学) 増田 夏子	28

第2章 実践篇

1 前期TLP的实践 王 前	30
2 后期TLP「东西文明学」的实践	
1 思想与批评 王 前	34
2 语言与历史 白 春花	37
3 国际社会科学 李 彦铭	40
4 环境与身体 白 佐立	42

第3章 数据篇

1 历届选修人数、结业人数	46
2 传媒报导	46
3 沿革	47



教養学部長あいさつ

お祝い

教養学部長 石田 淳

大学教育における良質な異文化体験として、外国語学習に優るものはない。言語を通じて論理的思考、規範的評価を行う人間にとって、言語はその文化的アイデンティティの核心をなす。一定の言語能力を具えなければ、自集団を相対化し、他集団との間に相互理解を深めることもできない。また、文化圏を超えて通用する説得力を培わなければ、特定の文化圏にとどまらない人間社会に共通の課題の解決のために発言することもできない。

全学的に評価されるTLPの現在があるのは、高田康成先生（本学名誉教授、2015年退職）らのご先見と、TLP中国語プログラムの成功があったからである。また、TLPにサマープログラムがあるのは、刈間文俊先生（本学名誉教授、2018年退職）をはじめ、関係教員の着想と行動があったからである（中国語TLPの南京大学サマープログラムは、ゼンショーホールディングスからのご助成を得て実現した）。五年間とは言え、これほど誇れる五年間はあるまい。

このプログラムを通じ精密な言語表現力を身につけた学生たちが多文化共生の社会の中で知的に豊かな人生を生きて行く——このことをTLPの運営に労力を惜しまない学部関係者とともに心から願う。

教養学院院长致辞

贺词

教養学院院长 石田 淳

谈及大学教育中良好的异文化体验，首推外语学习。对于通过语言进行逻辑思考与规范性评价的人类而言，语言是其文化认同的核心。如果不具备一定的语言能力，就不能把自身所在的群体相对化、深化与其他群体之间的相互理解。再有，如果不培养通用于不同文化圈的论证能力，就无法为解决超出特定文化圈的人类社会共通的问题而建言。

在全校得到认可的TLP能有今天，得益于高田康成老师（本校名誉教授，2015年退休）等人的先见之明和TLP汉语项目的成功。另外，TLP夏季项目的成立，则要归功于以刈间文俊老师（本校名誉教授，2018年退休）为首的相关教师的构思与实际行动（汉语TLP的南京大学夏季项目在ZENSHO HOLDINGS的赞助下得以实现）。虽然只有短短五年，但这是值得骄傲的五年！

我与为TLP不辞辛劳的学院相关人士一道，衷心祝愿通过该项目掌握了高度语言表达能力的同学们将来在多文化共生的社会中走上充满知性、丰富多彩的人生道路。



グローバルコミュニケーション研究 センター長あいさつ

グローバルコミュニケーション研究センター長
寺田 寅彦

トライリンガル・プログラム（TLP）中国語が始まって5年が経ちました。その軌跡は輝かしいもので、心より祝い申し上げます。TLPは国際社会における指導的人材の育成を目的とした特別教育プログラムであるグローバルリーダー育成プログラム（GLP）の一環として始まりましたが、入学時に一定レベルの英語力を有すると認められる学生を対象としていることから、優れた素養を持つ学生が参加するプログラムであることがわかります。しかし、「玉不琢、不成器、人不学、不知道（玉琢かざれば器を成さず、人学ばざれば道を知らず）」です。プログラムに参加している学生たちが互いに切磋琢磨してはじめてほかにはない輝きを得ることができます。また、指導と運営に携わる教員と職員が力を尽くされたからこそ、琢ぎ学ぶことに学生たちは一意専心できたのです。関係の教職員の皆様に敬意を表します。この5年のTLP中国語の軌跡の輝きに、その努力が見事に結実しています。「磨杵作針（杵を磨いて針と作す）」のたとえのとおり、TLP中国語は努力が報われることを教えてくれました。そして今、ほかの多くの言語がTLPを開講し、TLP中国語に続いています。TLPの今後の発展を心より願っています。

国際交流研究中心主任致辞

国際交流研究中心主任 寺田 寅彦

三语尖子班（Trilingual Program, TLP）の汉语項目至今已经过去了五年。该项目在五年的时间里留下了一道光辉的轨迹，在此由衷表示祝贺。TLP是作为以培养国际社会领导型人才为目的的特别教育项目即全球领袖培养项目（GLP）的一个环节而启动的。该项目以入学时具备一定英语能力的学生为对象，从这点可以看出这是一个由优秀学生组成的项目。不过，“玉不琢，不成器，人不学，不知道”。有了参加项目的同学们相互间的切磋琢磨，项目才取得了巨大的成功。还有，正因为参与指导与管理的教师和职员们尽心尽力，同学们才得以一心一意地钻研学习。在此向诸位相关教职人员表示敬意。TLP汉语项目在这五年里的光辉轨迹，就是你们努力的丰硕成果。就如“磨杵成针”这句成语所揭示的那样，TLP汉语项目告诉我们：有付出就有回报。继TLP汉语项目之后，还有许多其他语言的课程在TLP开讲。我衷心祝愿TLP在今后取得更大的发展。



前期TLP中国語 コーディネーターあいさつ

自律したグローバルリーダーを育てる

前期TLP中国語コーディネーター 阿古 智子

TLPには日本語、英語に加えて、もう一つの外国語を使いこなすグローバルリーダーを育成するという目標があります。中国語は使用人数が世界で最も多い言語であり、国際社会を俯瞰できるグローバルリーダーが優先的に学ぶべき言語であると言えます。自分の足元のコミュニティの、そして、ますます複雑化する世界の動きを的確に分析し、未来に向けたイノベーションを進めるためには、コミュニケーション能力が必要不可欠です。

しかし、単に文法や語彙を学び、外国語で読み書きや会話ができるようになるだけでは、グローバルリーダーに必要とされるコミュニケーション能力を育むことはできないでしょう。では、どのような「学び」が、リーダーたる人材を育てるために必要なのでしょう。

私は、大学院で教育学や社会学を学び、さまざまな国、地域の学校を見てきました。そして、今は小学生の息子を持つ母として、PTAの活動に参加したりしながら、日本の教育現場を観察しています。その中でしばしば、学校のルールや、教室内の慣習には、子どもが自律した考え方を身につける機会を奪ってしまうものが少なくないと感じています。「何のために学んでいるのか」という目的に対する問いを常に持つことで、「学び」が生きた意味を持つようになります。逆に、目的を認識することなく、ただ既存の規則や枠組みに従っているだけでは、いつ

TLP汉语前期负责人的寄语

培养自律的全球领袖型人才

TLP汉语负责人 前期 阿古 智子

东京大学TLP项目，旨在培养除了英语、日语之外也能够熟练运用另一门外语的全球领袖型人才。汉语是世界上使用人口最多的语言，因此对于能够胸怀全球的领袖型人才来说，汉语应当是需要优先学习的。无论是为了能够准确地分析把握身边的地区动态乃至日渐复杂化的世界形势，还是为了推动能够面向未来的革新，交流沟通的能力都是不可或缺的。

然而，仅仅通过对语法、词汇的学习进而掌握一门外语的读写和会话，并不一定能培养出全球领袖型人才所必需的交流沟通能力。那么，为了培养这类人才，需要进行怎样的“学习”呢？

笔者本人在研究生时期学习了教育学和社会学，也曾去过许多不同国家和地区的学校里参观。如今，我作为一名小学生的母亲，在参与学校PTA等活动的同时，也观察日本教育的第一线。我发现日本的教育，譬如学校的章程、教室内的规矩等，经常会剥夺孩子们学习掌握自律性思考方式的机会。通过经常进行“我为何而学习”这类问题的思考，“学习”这一过程才能够焕发生机。与之相反，如果不弄清楚学习的目的，只是遵循现有的规则和框架，总有一天可能会导致采用与目的相违背的方法进行学习的结果。

自律的个人能够尊重对方的想法、互相切磋琢磨的话，他们所属团队的集体力量也会相应增强。置身于社区、国家乃至全球社会等更大环境中时，自律的个人能否发挥思维能力、判断力、行动力、沟通交流能力、协调能力，关系到项目的成败、外交关系的强

の間にか目的に反する手段を選んでいることもあります。

自律した個人が互いの考えを尊重し、切磋琢磨し合うことができれば、所属する組織のチーム力も増していきます。地域コミュニティ、国家、グローバル社会などの、さらに大きな環境に身を置く場合にも、自律した個人が思考力、判断力、行動力、コミュニケーション能力、調整能力などを十分に発揮できるかどうか、プロジェクトの成否、外交関係の強化、ひいては平和構築や戦争の防止に関わってくるのです。

TLPでは、学生たちが「どのように人とつながり、社会の中で自分の力を発揮するのか」を考える機会を提供するようにしています。常日頃の語学の授業や海外研修に加え、国内外のゲストを招いてのレクチャー、留学生との交流会、文化交流活動、フィールドワーク、映画上映会などを頻繁に行い、TLP同窓生との関係構築にも力を入れています。

AI（人工知能）が人間の多くの仕事を奪いつつある現在、経済や社会の構造は大きく変わっています。人間の「意志の力」がますます問われる時代にこそ、TLP生のなかから、グローバル社会の変革をリードする人材が育てて欲しいと考えています。

化乃至和平友好関係の构建、戦争予防等重大事項。

TLP項目为学生提供了进行“怎样与人交往，怎样在社会中发挥自己的能カ”这类思考的机会。除去平时的授课和海外研修学习，我们也会频繁邀请国内外的嘉宾进行演讲，组织留学生交流会、文化交流活动、田野调查和上映电影，同时重视与TLP项目的所有同学保持良好关系。

在AI（人工智能）一步步夺取许多人就业岗位的当下，经济和社会的构造正在面临巨大转变。正是在这个愈发要求人的“意志的力量”的时代，我们才更希望在参与TLP项目的学生中培养出能够领导全球变革的人才。



後期TLP中国語 コーディネーターあいさつ

「中国語を学ぶ」から「中国語で学ぶ」へ

後期TLP中国語コーディネーター 石井 剛

中国語を学ぶことの意味はいったいなんでしょう。しばしば言われるように、中国は今日、世界最大の人口を持ち、GDPでもアメリカに次いで第二位の経済大国であり、国連の常任理事国の一つであると同時に、その国力の増強に伴って21世紀の世界を担う大国の一つとなりました。最近では、スマートフォンを使ったキャッシュレス経済や、レンタル自転車などのシェアリング・エコノミーの急速な普及、そしてそれらを支えるIT技術による広範な社会管理システムなどが、とみに注目を集めるようになりました。中国語を学ぶことは、そうした中国の政治・経済・社会を知るための入り口として重要性を増す一方であると多くの人たちが考えています。

そうした認識や判断はもとより正しいことです。しかし、その先にいったい何があるのでしょうか。TLP中国語の計画が動き出した2012年、日本と中国の関係は冷え切っていました。発足初年度(2013年度)の初修中国語履修者数が前年に比べて91名減少したのは、そうした時勢の影響によるでしょう。わずか5年の間を見るだけでも、中国を見るわたしたちの目はめまぐるしく変わっています。わたしが中国語を学び始めた30年前、中国は貧しい発展途上国だというイメージでした。日本はバブル経済のまっただ中でもあり、対中円借款などによる経済支援が中国の経済発展を支えているとも言われていま

TLP汉语后期负责人的寄语

从“学习汉语”到“通过汉语学习”

TLP汉语负责人 后期 石井 刚

学习汉语究竟有什么意义？像人们常说的那样，在今天，中国拥有世界最庞大的人口，是GDP仅次于美国的世界第二大经济体、联合国安理会常任理事国之一。同时，随着国力的增强，中国还成为了对21世纪的世界有着举足轻重的影响的大国之一。最近尤为引人注目的是：通过智能手机实现的“无现金支付”经济、“共享单车”等共享型经济的飞速普及，以及支撑这些新经济模式的社会管理系统（这种系统以IT技术为依托，覆盖面广）。很多人认为，作为了解当下中国的政治、经济、社会的基本手段，学习汉语的重要性与日俱增。

这种认识与判断无疑是正确的。但是，学习汉语的意义仅停留在这一层面上吗？在“TLP汉语”计划实施伊始的2012年，中日关系降到了冰点。受这一局势的影响，在“TLP汉语”正式启动的第一个年度(2013年度)，“初修中国语”的选修人数比前一年度减少91名。该项目启动至今已有五年，即便只看这五年，我们眼中的中国也发生着翻天覆地的变化。在我刚开始学习汉语的三十年前，中国给人的印象是一个贫困的发展中国家。当时的日本正处于泡沫经济的高峰，也有人说正是日本的对华贷款等经济援助支撑着中国的经济发展。而这只不过是区区三十年以前的事。

今天正在学习汉语的你们在三十年后将生活在一个怎样的世界中呢？既然在TLP学习汉语，抱有对未

した。たった30年前のことです。

いま中国語を学んでいるみなさんは30年後どのような世界に暮らしているでしょうか。TLPで中国語を学ぶ以上、未来の世界に対する展望を持つことは基本中の基本です。そう考えた場合、ただ単に「いま」の中国と世界だけを見据えて中国語を学ぶだけでは不十分なのです。じつは、いま世界の多くの哲学者たちは、現在、人類が直面しているのは、数百年に一度、いや、もしかすると人類存亡の危機にかかわるかもしれない、重大な歴史の転換点であると考え、新しい概念、新しい制度、新しい社会像を必死で模索しています。巨大なパワーとなった中国は、こうした転換点で主役を演じるアクターです。中国が深くコミットした人類史の転換点で求められるのは、何よりも中国に蓄えられた古くからの思想資源です。

後期TLPが取り組む「中国語で学ぶ」とは、そうした豊かな思想資源に触れるための実践の第一歩にほかなりません。わたしたちが求めるのは伝統的な「中国通」ではありません。中国語を通じて、世界を考えることのできる、まったく新しい人材なのです。

来世界的展望是最基本的要求。这么一想，单单为了了解“今天”的中国和世界而学习汉语，是不够的。事实上，当今世界上有许多哲学家认为人类现在正面临着数百年一遇的——不，甚至可能是关系到人类存亡的重大历史转折点，他们正在不遗余力地摸索着新的概念、新的制度、新的社会形态。已成为一股巨大力量的中国将在这一转折点扮演主要角色。在中国深入参与其中的人类史转折点上，我们所需要的正是在中国自古以来积蓄至今的思想资源。

后期TLP开展的“通过汉语学习”项目，不外乎为了接触这些丰富的思想资源的第一步实践。我们所追求的并非传统的“中国通”，而是能够通过汉语来思考世界的新型人才。

第 1 章

概況編

概況篇

1 プログラム一覧

項目一覧表

			1年次		2年次		
			S	A	S	A	
前期 TLP	基礎科目	中国語一列	●	●			
		中国語二列	●				
		中国語演習	●	●			
	総合科目	中級演習			●		
		インテンシブ 会話	●	●	●		
		インテンシブ 聴解	●	●			
		インテンシブ 作文			●		
		表現練習	●	●			
		台湾研修		●			
		南京サマースクール				●	
後期 TLP	共通中国語	中級精読				●	
		中級会話				●	
		中級作文				●	
		上級精読					
		上級会話					
		上級作文					
	東西文明学Ⅰ	思想と批評				●	
		言語と歴史				●	
		国際社会科学				●	
		環境と身体				●	
	東西文明学Ⅱ	思想と批評				●	
		言語と歴史				●	
		国際社会科学				●	
		環境と身体				●	
	東西文明学Ⅲ	思想と批評				●	
		言語と歴史				●	
		国際社会科学				●	
		環境と身体				●	
			北京研修				●

3年次		4年次		備考
S	A	S	A	
				文系のみ
				理系は任意選択
				理系のみ(任意選択)
	●		●	
	●		●	
	●		●	
●		●		
●		●		
●		●		
●	●	●	●	英語
●	●	●	●	英語
●	●	●	●	英語
●	●	●	●	英語
●	●	●	●	中国語
●	●	●	●	中国語
●	●	●	●	中国語
●	●	●	●	中国語
●	●	●	●	日本語 (PEAK生)
●	●	●	●	日本語 (PEAK生)
●	●	●	●	日本語 (PEAK生)
●	●	●	●	日本語 (PEAK生)
	●		●	

2 プログラム紹介

项目介绍

1 前期TLP

阿古 智子

前期TLPでは、理系、文系ともに1年次のSセメスターで、基礎科目の1列・2列、演習、初級インテンシヴ（会話、聴解）を週に5コマ、Aセメスターでは週に4コマ履修し、2年次Sセメスターには中級講読、中級会話、中級作文を週に3コマ履修します。このように見ると、学生たちは毎週、かなりの時間を語学に費やしていることになりませんが、実際のところ、それぞれの専攻する勉強にも多くの時間を割かなければならず、中国語を勉強する時間は限定されます。そこで私たちは、効率よく、学生の学習能力を最大限引き出すため、「発信力の強化」「学生たちの要望を取り入れた授業創り」「知的興味に応えるプログラムの提供」に力を入れています。

まず、「発信力の強化」についてですが、作文や会話、発表型の授業に比重を置き、「中国語で伝える力」をつけることに注力しています。学生たちには、「何を、どのように伝えたいのか」を常に考えさせ、発信力を強化するための教養を身につける努力を促しています。

さらに、能力と意欲の高い学生をさらに伸ばすため、学生のレベルや要望に合わせて教材とカリキュラムを柔軟に変化させるようにしています。学生の要望から生まれた1年次の作文授業や、その成果に基づいて開講した2年次の上級作文授業など、フィードバックを重視した新しい授業スタイルを取り入れています。特に優秀な学生には、個別対応も行うほか、学生自身が交流し、自主的に勉強する雰囲気や環境づくりも意識しています。

TLPの最終目標は、単なる中国語の習得ではありません。「中国語を学ぶ」から「中国語で学ぶ」へ――。中国語で何を学ぶのかに照準を定め、学生のさらなる知的興味に応えられるよう、各教員は自分

前期TLP

阿古 智子

在TLP前期项目中，文科、理科学生都要在1年级春季学期中每周上5节课，分别是基础科目一列・二列、演习、初级会话和听力课，秋季学期每周4节课(减少一节基础汉语课)，在二年级春季学期有中级阅读、中级会话、中级作文，最多可以每周上3节课。这样来看，学生们或许每周都要花费相当多的工夫在语言学习上，但是实际上，由于他们必须花很多时间学习自己的专业课，因此学习汉语的时间反倒是受到限制的。因此，我们为了能够最高效、最高程度地发挥学生的学习能力，在“加强学生的表达能力”“满足学生要求的课程创新”“满足学生求知欲的课程设置”等方面持续做出努力。

首先，在“加强学生的表达能力”方面，我们设置了作文和会话课，重视发表型课程，努力让学生掌握“用汉语表达的能力”。我们会经常让学生思考“想表达什么、想怎么表达”这类问题，努力培养并强化他们的表达能力。

此外，为了满足能力强且学习愿望大的学生，我们会配合学生的水平和要求灵活调整教材和教学大纲。比如顺应学生要求所设置的1年级的作文练习环节和在此基础上展开的2年高级作文课，都是重视学生反馈的新型授课形式。特别是对于优秀的学生，我们除了进行个别应对，也愿意帮助他们创造有助于自主学习的学习氛围和环境。

TLP的最终目标，不是单纯的汉语学习，而是从“学习汉语”到“用汉语学习”。以用汉语能学到什么为标准，为了满足学生日渐增多的求知欲，教员们根据自己的专业各自准备教材。结果，学生们在学习汉语的同时，也能了解中国的历史文化和发生在现代中国的各种问题，加深对中国的理解和思考。

提供和活跃在各界的人士面对面交流机会的“特别演讲会”，正是出于上述目的而举办的。迄今为止，

の専門領域に即した独自の教材を用意しています。その結果、中国語を学びながら中国の歴史や文化、現代の中国社会における諸問題など、中国に関して理解と考察を深めることができます。

各界で活躍する人たちと出会う機会を提供するための「特別講演会」も、こうした狙いのためです。これまで、ノーベル文学賞の呼び声も高い作家・文学者の閻連科氏、元駐中国大使の宮本雄二氏、中国の女性アンダーウェアメーカーとして成長し、現在ではメンズウェアや、ハイテクのスポーツウェア、化粧品なども開発する大企業となった愛慕(Aimer) 総裁の張栄明氏、メセナに積極的に取り組み、伝統演劇の昆劇の支援や美術館の運営でもよく知られている北京戯曲評論学会会長で、作家・演出家・演劇評論家でもある靳飛氏などを、講演会にお招きしました。

学生たちは、大学の外で行なわれている各種のリーダー育成プログラム、文化交流、社会貢献活動などにも積極的に参加しており、それをフィードバックする形で、TLPの授業や活動に生かしています。このようにTLPでは、教科書にしばられることのない、学生を主体とする生きた授業を展開しています。

我们有幸邀请到了“获得诺贝尔文学呼声很高”的作家阎连科，前驻中国大使宫本雄二，以制造中国女性内衣起家，如今成长为也生产男装和高科技运动服、从事化妆品研发的大企业爱慕(Aimer) 的总裁张荣明，以积极参与社会公益活动，支持传统戏剧昆剧发展、美术馆的运营而为人所知的北京戏曲评论学会会长、作家、导演、戏剧评论家靳飞等发表演讲。

学生们积极参与在大学校园外举办的各种领袖型人才培养项目、文化交流活动和社会贡献活动，并把成果反馈到TLP的课程和活动中。总之，TLP不拘泥于课本，而是以学生为主体开展着生动活泼的教育。

2 後期TLP

石井 剛

後期TLPは、前期TLPと異なり、現在のところ、中国語プログラムのみ開設されています。前期課程で身につけた基本的な中国語スキルをさらにブラッシュアップしながら、「中国語を学ぶ」から「中国語で学ぶ」へとグレードアップすることが、後期TLPの目標です。そのために、後期TLPはさまざまな授業を展開しています。

(1) 東西文明学

後期TLPの根幹をなす科目群です。「思想と批評」、「言語と歴史」、「国際社会科学」、「環境と身体」という四つのサブカテゴリーのもとで授業が展開され、人文・社会・自然各領域の学問を英語と中国語で学ぶことができます。これらは語学学習の科目ではなく、英中両言語を授業使用言語として、教養学部後期課程ならではの高度な教養を学ぶ授業です。履修者は、この四カテゴリーのうちの三つを、英語と中国語それぞれ、合計6科目の履修を完了することで、後期TLP修了証を得ることができます。

(2) TLP生向けハイレベル中国語

前期TLPで一定の水準に達したからといって、そのまま「東西文明学」の授業についていけないわけではありません。中国語レベルのさらなる向上には継続的な訓練が必要です。そのために、TLP生を対象を特化した中国語のクラスを設けています（教養学

後期TLP

石井 剛

後期TLPと前期TLP不同、目前只开设汉语项目。后期TLP的目标是：进一步提高在前期课程掌握的汉语基本技能，同时从“学习汉语”升级为“通过汉语学习”。为此，后期TLP开设了各式各样的课程。

(1) 东西文明学

该科目群是后期TLP的主干部分。课程将在“思想与批评”、“语言与历史”、“国际社会科学”、“环境与身体”这四个分支下开展，同学们可通过英语和汉语来学习人文、社会、自然等各领域的学问。这些科目不是语言学习的科目，而是以中英两种语言为授课语言培养高度的人文学养的科目，该科目是教养学院后期课程所特有的。选修者从上述四种分支中选择三种，每种包括中英文两个科目，修完总计六个科目的课程，即可获得后期TLP结业证书。

(2) 面向TLP学生的高级汉语

虽然同学们的汉语能力通过前期TLP的学习到达一定的水准，但这并不意味着能跟上“东西文明学”的课程。所以，为了进一步提高汉语水平，有必要继续进行汉语训练。为此，后期TLP开设了专门以TLP学生为对象的汉语班（在教养学院后期课程教养专业称为“共通中国语”）。

(3) 北京研修

后期TLP将于每年秋季在北京举行为期一周的实地考察。该研修属于“后期国际研修”科目。与前期

部後期課程教養学科では「共通中国語」と称されます)。

(3) 北京研修

毎年秋に、北京で一週間のフィールドトリップを行います。「後期国際研修」科目に位置づけられます。前期TLPの国際研修と異なっているのは、研修中の言語が基本的にすべて中国語で行われることです。訪問先ではすべて通訳なしの交流を行います。

(4) キャンパスアジアなどを利用した中国語圏留学

後期TLPでは、中国語圏の大学への交換留学によって、現地で「東西文明学」に相当する単位を取得することを奨励しています。特に、北京大学元培学院でのセメスター留学プログラムである「キャンパスアジア」とは連携関係にあります。

最後に、後期TLPの対象学生について述べます。前期TLPでは、初修中国語だけが対象でしたが、アカデミック中国語に関心を持ち、そのスキルを持つ学生はほかにもたくさんいます。例えば既修中国語の履修者や、PEAK生のうち中国語圏で育った人などです。後期TLPは、初修中国語を履修していない人や、初修中国語を履修したけれどTLPクラスではなかった人などでも、英語と中国語の双方において前期TLP修了生と同等レベルの学力を持つと認められれば履修が可能です。

TLP国際研修不同的是、研修期間の言語将全部使用汉语。在访问地点的所有交流均没有安排翻译人员。

(4) 利用“亚洲校园”等项目的汉语圈留学

在后期TLP，我们鼓励同学们通过与汉语圈各大学的交换留学，在当地修得相当于“东西文明学”课程的学分。特别是北京大学元培学院的学期留学项目“亚洲校园”与后期TLP之间有合作关系。

最后介绍后期TLP的招生对象。前期TLP只以“初修中国语”课程的同学为对象，但实际上在此之外还有很多对学术汉语感兴趣并具备相关技能的学生。比如曾经修过汉语课程的学生、在汉语圈长大的PEAK课程生等等。在后期TLP，没有修过“初修中国语”的同学、修过“初修中国语”但不是TLP班的同学，只要被判定在中英文两方面具备与前期TLP结业生相同的能力，即可选修该项目的课程。

3 海外研修プログラム

台湾研修（1年次）

阿古 智子

台湾研修は1年間のTLP中国語の課程を修了した学生を対象に行っています。グループごとに行うテーマ学習やフィールドワークが特徴です。学生たちが選んだテーマは、民主化、日本統治期の台湾、戦争に関わる歴史、環境保護、エネルギー問題（原子力発電）、農業と持続可能な開発、高齢化、地域開発（村おこし、まちづくり）、原住民族の文化、ビジネスなど、多岐にわたります。

1年生の聞き取りの能力には限界がありますし、学生たちが普段学んでいるのは中国大陸の標準語「普通話」であり、使っている文字も「簡体字」（1950年代に中華人民共和国で制定された従来の漢字を簡略化した字体体系）です。台湾の公用語である「国語」は普通話と基本は同じですが、台湾ならではの言い回しやイントネーションがあり、読み書きには「繁体字」を使います。台湾語（閩南語）や客家語、原住民族の言葉もありますから、フィールドワークの際には、台湾の大学生にサポートしてもらっています。

中国大陸でも数多くの方言があるように世界各地の中国語は多様です。また、歴史や現在の国際関係を多角的に分析するためには、中華圏を広くとらえることが重要です。私たちはそのような観点から、台湾を研修先に加えました。



出国研修項目

台湾研修（1年級）

阿古 智子

台湾研修項目は已经在TLP学习一年汉语的学生为对象，其特征是以组为单位开展主题学习活动和田野调查。学生能够选择的主题，涵盖了民主化、日本统治时期的台湾、战争的历史、环境保护、能源问题（核能开发）、农业和可持续发展、老龄化、地域开发（乡村振兴、社区建设）、原住民的文化、商业贸易等等许多方面。

1年級学生汉语理解能力有限，他们平时授课中的使用语言是普通话，文字也是简体字（1950年代中华人民共和国所制定的汉字简化字）。而台湾的通用语是“国語”，虽然基本上与普通话一致，但是却有着台湾特有的表达方式和语音腔调，读写时也使用“繁体字”。此外，当地也使用台湾话（闽南话）、客家话和原住民的语言，因此我们会请台湾当地的大学学生帮助我们的学生进行田野调查。

正如中国大陆就有许多方言一样，在世界各地使用的汉语也多种多样。为了能从多个角度分析历史和当前的国际关系，人们需要从更加广阔的视角来看待华语圈。我们正是出于这样的考量，才在课程中加入了赴台湾的研修项目。



南京サマースクール（2年次）

TLP特任講師 李 彦銘

南京サマースクールでは、到着翌日の朝にまず実力テストが行われます。20人の参加者が2つのクラスに分かれ、平日の8時から12時までは中国語の集中授業、午後は書道、太極拳などの実技や中国社会に関する講義に続いて企業や文化的なスポットなどの見学を行います。「異なる言語・文化の環境に触れる」を研修の目的としています。例年の参加者には文系・理系が混じっていますが、科挙博物館（江南貢院）や秦淮河、そして総統府や中山陵など、中国の文化史や政治史における重要場所に強い興味を示してくれました。彼らにとって、南京での生活は、歴史と日常の関係性などの問題意識に触れる機会にもなったでしょうか。また、中国社会などに関する講義は英語で、南京大学の学生や学生ボランティアとの交流は中国語と英語を織り交ぜて行われ、さらに今年は日本語を学ぶ高校生たちとの、日本語と中国語での交流も実施できました。異なる言語で物事を考えることは、きっと母国語での思考の落とし穴を気づかせ、視野を広げるきっかけとなったに違いありません。

中国屈指の「火炉」である南京の地で、8月の3週間をぎっしりと詰まったカリキュラムをこなしながら過ごすことはたやすいことではありません。ただ、参加学生が自らのコンフォートゾーンから積極的に踏み出そうとする姿勢に感銘を覚えました。



南京暑期学校（2年級）

TLP特任講師 李 彦銘

南京暑期学校の第一項任務就是分班考試。20位同學分成兩個班，每天上午8-12點為漢語課，下午是書法、太極拳等實踐課或者是關於關於中國社會各方面的英文講座，抑或是參觀、交流活動。課程的主要目標是：“接觸不同語言、文化下的環境”。每年參加的學生，專業雖然各不相同，但大家對於科舉博物館（江南貢院）、秦淮河、總統府、中山陵這些在中國文化史與政治史上極為重要的場所，都表現出了同樣的熱情。對於學生們來說，南京的生活應該也是一個幫助他們思考歷史與日常生活相關性的重要契機。而用英語介紹中國社會的講座、同南大學學生的交流活動同時使用漢語和英語，再加上今年新增加的高中生交流會，使用的是日語和漢語，在不同語言環境中的無縫切換，一定也會讓他們注意到自己在母語思維中的盲點，進一步拓寬視野。

在中國著名“火炉”南京度過8月酷暑中的三個星期，同時還要完成大量的課程任務，應該說並不是一件容易的事。因此，在這裡也要感謝各位同學勇于踏出自己舒適區的探索精神，並希望他們今後能再接再厲。



北京スプリングプログラム

石井 剛

北京大学元培学院、ソウル国立大学自由専攻学部との三大学間交換留学プログラムである「キャンパスアジア」の一環として、2018年3月3日から9日までのスケジュールで北京市を訪れました。参加したのはTLP中国語履修の1年生を主とする20名です。中国語の履修を開始して以来、初めての中国フィールドトリップとして、中国と北京を体験するよい機会となりました。最初に訪問したのは清華大学です。そこでは、日本人として清華大学の博士課程を卒業し、現在同大学で教鞭を執っている倉重拓先生から、中国在住の研究者として、英語・中国語・日本語のトライリンガル人材たることの経験を聞きました。また、その翌日は、北京大学を訪れました。北京大学には哲学系の学生を中心に儒学經典を研究しながら、ボランティア活動を行う「儒行社」と呼ばれるサークルがあり、その学生たちと交流を行いました。また、元培学院を訪問し、キャンパスアジア留学生とも交流を深めました。その他、故宮や頤和園、円明園、万里の長城などを訪れ、北京を肌で感じる貴重な機会となりました。



北京春季項目

石井 剛

作为东京大学与北京大学元培学院、首尔国立大学自由专业学院三个大学间的交换留学项目“亚洲校园”的一个环节，我们于2018年3月3日至9日访问了北京市。参加者以TLP选修汉语的大一学生为主，共有20人。这是他们自选修汉语以来首次访问中国，是体验中国、体验北京的好机会。我们最先访问的是清华大学。我们在那里见到了从清华大学的博士课程毕业，现任教于该大学的日本人仓重拓老师。作为旅华学者的仓重老师向我们讲述了身为一个中、英、日三语人才的经验。第二天，我们访问了北京大学，在那里和该校社团“儒行社”的成员们交流，该社团以哲学系学生为中心，一边研究儒家经典，一边开展志愿者活动。我们还参观了元培学院，也和“亚洲校园”项目的留学生们进行了更深入的交流。此外还参观了故宫、颐和园、圆明园、万里长城等景点，这真是一个切身感受北京的宝贵机会。



後期北京秋季研修

LAP執行委員 伊藤 徳也

北京研修は、後期TLP生が、習得した中国語スキルを使って中国の社会と文化を実践的に学ぶプログラムとして、2014年度から始められ、16年度からTLP生以外にも開放されて、後期課程の「国際研修科目」となっています。

研修中は、中国語による講義を受講するとともに、中国人学生と交流し、また、企業、政府関係機関を見学して、関係者と懇談をしました。一流の講師について書道の実技や伝統演劇の実演にも親しみました。

- ・ 中国人民大学文学院
- ・ 「人民中国」雑誌社
- ・ 国能中電节能环保技术有限公司
- ・ 北京京劇院
- ・ 法海寺、承恩寺



以上はほぼ毎回訪れている訪問先で、書道講座と伝統演劇（京劇、越劇）鑑賞も毎回の恒例となっています。

他に、政府関係機関として、北京市政府外事弁公室（2014年度）、在中国日本国大使館（16年度）、新華社（17年度）、中日友好医院（17年度）、中国企業として、愛慕集團（16～17年度）も訪問しています。文化関連では、梅蘭芳記念館（14～15年度）、恭王府（14年度）、瑠璃廠（15年度）、798芸術基地（15年度）、宋莊芸術村（15年度）、五里坨民俗館（17年度）、頤和園（17年度）を見学しました。

実際に派遣された学生は、6名（14年度）、6名（15年度）、12名〔中国留学中の5名を含む〕（16年度）、6名（17年度）です。文系理系男女学年を問わず、様々な学生が、中国語スキルを高めるとともに、中国の社会と文化に対する理解を深めています。

后期北京秋季研修

LAP執行委員 伊藤 徳也

北京研修项目始于2014年度，主要面向TLP后期学生，鼓励运用已掌握的汉语展开实践，学习中国社会文化。2016年度起作为教养学院后期课程“国际研修科目”，面向全校学生开放。

除了全部用汉语授课外，该研修还安排了与中国学生的交流，参观企业、政府机关及事业单位，与相关人士的恳谈会。此外，学生还可欣赏一流讲师表演的书法和传统戏剧。

- 中国人民大学文学院
- 人民中国杂志社
- 国能中电节能环保技术有限公司
- 北京京劇院
- 法海寺、承恩寺

以上为历年的固定参访机构，书法讲座及传统戏剧（京剧、越剧）鉴赏会也是常规活动之一。



此外，过去参访过的政府机关及事业单位还包括北京市人民政府外事办公室（14年度）、日本国驻华大使馆（16年度）、新华网（17年度）、中日友好医院（17年度）、新华网（17年度）。中国企业有爱慕集团（16-17年度）。文化机构另有梅兰芳纪念馆（14-15年度）、恭王府（15年度）、琉璃厂（15年度）、798艺术区（15年度）、宋庄艺术区（15年度）、五里坨民俗馆（17年度）、颐和园（17年度）等。

历年参加学生数分别为2014年度6名、2015年度6名、2016年度12名（包括5名正在中国留学的学生）、2017年度6名。不论文理、男女、年级，学生在提高汉语水平的同时，也加深了对中国社会文化的理解。

東京大学のグローバルリーダー育成プログラム（GLP）の一環として始まったTLPでは、「グローバルリーダー」のロールモデルとなる方々をお招きして講演をお願いしてきました。これはTLP生のみに関わった交流の機会です。これまで次の方々をお招きしています（肩書きはいずれも当時）。

第1回	2013年6月27日	岡本巖氏（日中経済協会理事長）
第2回	2014年2月4日	ロバート・キャンベル氏（東京大学教授）
第3回	2014年4月24日	加瀬豊氏（双日株式会社代表取締役会長）
第4回	2014年6月19日	藤原帰一氏（東京大学教授）
第5回	2014年7月3日	張旭東氏（ニューヨーク大学教授、北京大学教授）
第6回	2014年10月14日	梅葆玖氏（京劇俳優）
第7回	2015年1月8日	トマス・カスリス氏（オハイオ州立大学）
第8回	2015年6月11日	宮本雄二氏（元駐中国大使、日中友好会館副会長）
第9回	2016年11月6日	閻連科氏（作家、中国人民大学教授）
第10回	2016年12月22日	靳飛氏（北京戏曲評論学会会長）
第11回	2017年5月25日	張栄明氏（愛慕內衣有限公司董事長・総裁）
第12回	2017年9月28日	馬立誠氏（『人民日報』元評論員）ほか ＊座談会
第13回	2018年7月12日	高田康成氏（名古屋外国語大学教授、東京大学名誉教授）



3 修了生の声

第1期生 (2013年入学)

会社員 石神 友希穂

外国語を学ぶことは、単に文法や単語を記憶することではなく、その背景にある長い歴史の中で醸成されてきた考え方や概念を学ぶことだと思う。世界中が繋がり、互いの距離が縮まる中で、理解し合えないことによるダメージが大きくなっている。外国語を学んで相手の考え方を理解し、異なることは異なると認め、その上で自分の考えを伝え、互いの考え方を広げていくことの重要性は増していると思う。自動翻訳が発達するなかで外国語を学ぶ意味が問い直されても、多様な考え方の内面化は、自動翻訳では達成しえない。

そうはいても、このような理想論は、一朝一夕では到達できない境地である。だからこそ、TLPは価値が高いと思う。TLPでは、中国で作られた教科書を使い、授業中も中国語を使い、中国で生活し、中国の人々と出会い、少しずつ自分の頭や心を広げていく。私はこれまで複数の言語を学んできたが、これほど外国語に体当たりできる環境が整っていることはなかった。前期教養課程を何を勉強する時間に充てるかという選択はそれぞれにあると思うが、中国とは何なのか、如何に広大で多様なのか、近いようで遠いと感じていた中国について全身で学べたことは、私の前期教養課程時代の財産だと感じている。

结业生寄语

第1期生 (2013年入学)

公司职员 石神 友希穂

我认为，学习外语不单单是记忆语法和单词，而是学习在语言背后那漫长的历史中积淀而成的思维方式及概念。在这个世界各地联系愈发紧密、彼此距离不断缩小的时代，因无法相互理解而带来的伤害是巨大的。学习外语并理解对方的思考方式、承认不同之为不同，在此基础上传达自身想法、拓展彼此思路的重要性与日俱增。即便随着机器翻译的发达，学习外语的意义会被重新审视，但是，具有多样性的思考方式的内在化是机器翻译所无法实现的。

话虽如此，这种理想不是一朝一夕就能达到的境界。正因为如此，TLP具有很高的价值。在TLP，我们用的是在中国编写的教科书，课上用的也是汉语，在中国生活、邂逅中国的人们，一点一点地开拓自己的思维和心胸。我到目前为止学过几门语言，却没有遇到过像TLP这样得以全力以赴学习外语的环境。利用前期教养课程的时间来学习什么东西，我想各人有自己的选择。但是，“中国”究竟是什么、有多么广阔与多样？这是一个令人感到熟悉而又陌生的国度。能够全身心地学习有关中国的事情，是我在前期教养课程时代的宝贵财富。



第1期生 (2013年入学)

国家公務員 竹谷 綾

TLPが始まって、もう5年も経つらしい。私が入学した2013年、TLPは始まったばかりで、何もかもが手探りだった。少人数の選択授業ということもあって、「これを読みたい」「こういうコースにしてほしい」「この教科書はつまらない(!)」と随分わがままを言った記憶がある。そうしたわがままに対して、先生方も真摯に対応してくださり、中国本土から教材を取り寄せ、一緒に授業の内容を考えてくださった。コマによっては数人の受講生が王前先生の研究室に集まり、先生の机の前で中国語の小説を読むような、自由に、貪欲に、知を求めることのできる授業だった。

無論、TLPで得たものは言語の力だけではない。むしろ、1つの国と文化の本質を理解しようとした経験、その過程をともにした先生方と受講生との縁、そういったものが卒業後もなお強く活きていると感じる。今思い返せば、別に将来中国語を使う職に就くと決まったわけでもない生徒に対して、王前先生を始めとした先生方には本当に良くしていただいた。この場を借りて感謝申し上げる…だけでは足りないので、また是非TLP 1期生で先生を囲みたいと思う。

第1期生 (2013年入学)

国家公務員 竹谷 綾

TLP開始至今已五年。在我入学的2013年、TLP才刚起步，一切都处在摸索中。因为都是小班教学的选修课，我还记得当时大家说了不少随性的话：“我想读这个”、“我希望这门课这么上”、“这本教科书真无聊”……而老师们也真诚地回应我们的任性，甚至请人从中国寄来当地的教材，与我们一同考虑课程内容。TLP的课程令我们得以自由而贪婪地求知，有时候数位听讲者聚集在王前老师的研究室，在老师的办公桌前阅读汉语小说。

当然，在TLP收获的不仅仅是语言能力。毋宁是试图理解一个国度和文化的本质的经验，是共同经历这一过程的老师们与同学们的缘分——我感到这些东西在毕业后仍然发挥着重要作用。现在回想起来，对我们这些将来未必从事跟汉语有关的工作的学生们，以王前老师为首的诸位老师真的太好了。我在此表示感谢——当然只有感谢是不够的，希望今后还有机会和其他TLP第一期毕业生一同与老师相聚。



第2期生 (2014年入学)

京都大学大学院 比護 遥

「中国語「を」学ぶのではなく、中国語「で」学ぶ」。TLPの先生方が繰り返し強調されたことです。大学に入って初めて中国語に触れた私にとって、それは非常に遠い目標に思えたものでした。しかし、作文や会話を重視した少人数の授業や、中国で活躍する方々によるTLP講演会などの機会を通じて、目標に着実に近づいていることが実感できるようになりました。とりわけ、深い教養を兼ね備えた先生方による何気ない話から、語学を習得した「その先」を垣間見ることができ、学習の原動力となりました。もちろん2年次の南京大学へのサマースクールも、中国語が通じる喜びを感じることができた、楽しく忘れがたい思い出となっています。

後期課程では中国地域研究を専攻に選び、中国語や英語の文献を幅広く読むようになりました。複数の視点から見える豊かな景色があることを知ったとき、TLPでの学びを真に生かすことができたと感じました。卒業後も大学院に進み、研究を進めています。母語同然に、とまでは言いませんが、中国語の資料を読み、中国人の友人と談笑するのが日常の一部となりました。TLPがなければ今の進路を選ぶこともなかったかもしれないと思うと、感慨深いものがあります。この貴重な取り組みが今後も長く続くことを願っています。



第2期生 (2014年入学)

京都大学研究生 比護 遥

“从学习汉语，到用汉语学习”，这是TLP的老师们经常强调的一件事。我上大学后才开始学汉语，最初这个目标听起来很遥远。但是，TLP内容充实的小班课程尤其锻炼了我的写作和会话能力，定期举办的演讲会使我有幸与中国各界的名人交流互动，这些都让我感到离目标越来越近了。老师们学识丰富，课中的杂谈也很有趣，从中我体会到了学会外语后能做什么，读书有了动力。当然我也不会忘记南京大学的暑期学校，在那里初次有机会运用我的语言能力，留下了美好的回忆。

在后期课程，我选择了“中国地域研究”专业，开始广泛地涉猎汉语和英语文献。用不同的语言能看见不同的世界，当知道这件事时，我真的体会到了从TLP学到的东西的价值。现在我进入研究生院继续读书。虽说达不到母语的水平，但是看汉语的资料，跟中国朋友聊天，成了我生活的一部分。如果没有TLP，我是不是会选择别的道路呢？想到这里便十分感慨。衷心祝愿这个宝贵的项目今后也继续办下去。

第2期生 (2014年入学)

オックスフォード大学修士1年 中越 亜理紗

はじめまして。TLP中国語の前期&後期プログラム修了生の中越亜理紗です。私は日中ハーフですが、母語は日本語で、中国語はあまり出来ませんでした。そこで、TLPは自分を変える大きな契機となりました。南京や北京に短期留学できたこと、HSK 6級を取得できたこと、日本と中国で熱心な先生方や優秀な友人達に恵まれたこと…TLPでの経験は私の宝物です。

現在、私は文学部英文科を卒業して、オックスフォード大学英文科の修士課程に所属しています。そして、TLPでの成果は一見関係なさそうな英文学研究でもイギリスにおけるネットワーク形成でも実は大いに役立っています。TLPの東西文明学の枠で履修した授業に触発され、自分の研究では19世紀英国小説におけるアジア/アジア人の表象や東西の文化的交流に注目するようになりました。また、イギリスでも中国人留学生コミュニティに参加しているのですが、これもTLPで中国語力を鍛えたり中国文化への理解を育んだりできたおかげです。

専門分野とは別に外国語を真剣に学んだり、あるいは専門分野と外国語を掛け合わせたりすることは、自分の世界や可能性を大きく押し広げてくれますし、それが他の人のためになることもあると思います。後輩たちの代からTLPが中国語以外の言語にも開かれたとのことですが、心より応援しております。そして益々の発展を祈っております。

第2期生 (2014年入学)

牛津大学硕士一年级 中越 亜理紗

大家好。我是中越亚理纱，汉语TLP前期和后期课程的毕业生。我虽然是中日混血，但是因为从小就是用日语来交流，所以我的汉语能力可以说不是很出色。而加入TLP真的改变了我自己。体验了南京和北京的短期留学，考过了HSK6级，在日本和中国有幸遇到了许多位非常热心的老师们和优秀的同学们……在TLP的经验就是我一生的宝物。

从文学部英语文学系毕业后，我现在正在牛津大学英语文学的硕士课程继续我的学业。对我来说，TLP带给我的成果在看起来搭不上边的英国文学研究和在英国构建人脉上面也发挥了不小的力量。TLP课程里的东西文明学课启发了我去研究19世纪英国文学里的亚洲/亚洲人的表象和东方与西方的文化交流。在英国，我也能够参加中国留学生们的社交团体，没有在TLP锻炼出来的汉语能力和对中国文化的理解的话，这些都是不可能做到的。

认真地学习自己专业以外的外语，或者融合自己的专业和外语会大幅地拓宽自己的世界和增加可能性，而且也可能对他人有帮助。听说TLP开了汉语以外的课程，着实让我感到欣喜。我衷心地希望TLP这个项目能够有更好的发展。

第3期生 (2015年入学)

教養学部教養学科地域文化研究分科アジア・日本研究コース
磯 尚太郎

一つの言語を習得するのはとてつもなく難しいことだ。それはある社会に共有されているあらゆる記憶、知識、感情、感覚を知るということに他ならない。だから、本当にある言語を習得したければ、その社会の歴史、文化、思想、人々の悩みや楽しみ、あらゆることを知る必要がある。そうでなければ、どんなに簡単な単語に付着した意味も感触も正確に推し量ることはできない。もちろん、社会は多様で人によって記憶も感覚もそれまで触れてきた言葉もまるで違うから、いざその言語を使って実際に一人一人の人と話そうとすると、理解のための終わることのない努力と調整が必要になる。それは自分が既に持っている知識や概念、イメージの無限の破壊と再構築の過程でもある。このことは外国語だけでなく、母語を含めたあらゆるコミュニケーションに関して言えることだ。私がTLPに参加して中国語を学び、発音や文法の学習から様々な文章の読解、映像の視聴、中国語圏の先生や学生との交流、そして一年間の北京での留学生生活を体験し、一つの言語に長い時間向き合う中で気づいたのは、そのようなある意味当たり前のことだった。言語はただのツールやスキルではないし、言語の習得は何か別の目的のためのスタート地点に立つことではない。むしろ隣にいる誰かの話す未知の言語を理解することこそ、決して到達することのできないゴールなのだと思う。

第3期生 (2015年入学)

教養学院教養学系地域文化研究专业亚洲及日本研究班
磯 尚太郎

掌握一门外语是一件无比艰难的事，只有在了解一个社会所共享的记忆、知识、感情、感觉等一切之后，才能真正掌握。所以如果想要掌握一门外语，我们需要知道一个社会的历史、文化、思想以及人们的烦恼和快乐的一切。否则，不论是如何简单的词语，我们都无法正确地把握在此词中被赋予的含义和感觉。当然，社会不是单一、均质的，而是多样、多变的，每个人都拥有不同的记忆和感觉，接触过不同的话语，因此当用学到的语言和别人说话的时候，为了知道对方的意思，我们需要不断调整自己的理解。换言之，我们需要推倒并重建自己已有的知识、概念和印象。这不仅限于外语，用母语沟通亦是如此。我在参加TLP，学习汉语的过程当中，经历了学习发音和语法、阅读文章、观看视频、同中国老师和学生交流等一系列学习外语的阶段，而且还作为交换生在中国生活了一年，而这长期学习一门外语的经历教给我的正是如此简单的道理。对我而言，语言并不只是工具，掌握一门语言也并不是另一个目标的起点。我认为，理解身边的人所说的未知话语才是难以到达的终点。



4期生 (2016年入学)

教養学部教養学科超域文化科学分科学際日本文化論コース
増田 夏子

東京大学に入学してすぐ、初めて触れた制度がTLPでした。しかし、当初から名前だけでは訳も分からず、実生活でも、特段忙しかった記憶もなく、あまりTLP生である実感は沸きませんでしたし、きちんとTLP生であることについて考えたことはありませんでした。

それが、TLP生としての自分を一番に感じ得たのが、二年生時夏に行った三週間の南京大学サマースクールでした。食費や遊興費以外にお金をかけずともよく、また意欲ある仲間と共に、文字通り中国語漬けの日々を送ることは、自分の中国語の伸びしろを感じると共に、第二外国語としての中国語学習の限界を知ることに繋がりました。

その時、TLPの良い点は、勿論他の非TLP生が一年で語学を修了してしまうのに対し、一年半で前期TLPを修了、その後も後期TLP生として、手厚く面倒をみて頂けることにありますが、他の非TLP生と同様、一年間習った時点で、TLP生として続けるか、やめるか、という選択肢をきちんと提示してくれることにもあると、気づきました。これは消極的にも聞こえますが、語学を諦めることは、他の何か別な分野を選択することに繋がることだとも思うので、このように、自分の将来を考え、絞り込む機会をきちんと与えてくれるところが、TLP制度をまた違った側面からも信頼できると感じました。



第4期生 (2016年入学)

教養学院教養学系超域文化科学专业跨学科日本文化论班
増田 夏子

TLP可以说是东京大学最有特色的制度之一，在课堂上也感觉得到每个老师都在这个课程上花了很多心思，我们学生里也有不少拥有明确的人生目标，正在为自己的目标而努力不懈地学习汉语的。而我，就单单因为英语成绩考得还蛮不错而已，就踏进了这个“好好学习，天天向上”的世界，一天比一天忙，但是终究还是不知道自己在这里是想要干什么。

学生一旦参加了一个课程，当然这个课程是不太会考虑到他们中途会被淘汰的可能性。但是，当我们升学年时，TLP给了我们和一般同学们一样的机会去选择要不要二年级也继续上下去，当时，我才发现这是一件非常重要的提醒，让我们再次好好考虑到底这个课程对我们来说有何意义，有何影响。

TLP课程不但可以得到许多老师的关心与帮助，还可以参加许多有意义的课外活动，是个能让一个像我这样无目标的人也能大有长进的课程，但是这个课程最值得信任的地方是，它会不断地给我们带来机会，好好地思考到底学汉语对我们来说有什么意义。

第2章

実践編

実践篇

EALAI特任准教授 王 前

前期TLPは今年で六年目を迎えた。始めた直後は、専任のコーディネーターが事前に周到な計画を立ててくださったので、スムーズにスタートできたが、教員が模索しながら、このプログラムを学生と一緒に作ってきたというのが実感である。東大での初めての試みで、さもありなんであろう。

例えば、最初はクラス編成をせずに、教養科目の第二外国語の授業に、インテンシヴの中国語授業をプラスした構成で運営されていた。二年目からは、一般教養の外国語教育との差別化を図るために、クラス編成をし、またテキストも中国で作られたものを少しずつ導入し、TLP中国語としての形を作り始めた。

中国語専攻ではないが、将来的に英語と中国語を自由に操れる人材を育てるのが我々の目的なので、現場の教員として、中国語をどう位置づけるべきか、しばらくの間は模索が続いていた。学生の立場から見ると、外国語の新しいプログラムで大変興味深いのが、東大で勉強するすべての科目の中で一番重要な位置づけというわけではない。結局副専攻として位置づけるべきだという認識が定着し、それにあわせて授業を展開することにした。

具体的に言うと、時間の制約の中で、何に重点を置いて、中国語の教育をすべきか、授業の中で学生のフィードバックにも耳を傾けながら、試行錯誤を経験し、方法を模索してきた。本来なら、外国語大学の中国語学科と同じように、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四つの基本技能すべてに力を置くべきだが、実際はすべて均等にカバーするのが難しいことが実践の中でだんだん分かってきた。そこで、基礎文法などを中心に教える一年生の時は、最初は発音に力を入れ、しっかりと基礎を固める。聴解や

EALAI特任准教授 王 前

一眨眼、前期TLP已进入第六个年头了。虽然在开始这个项目之前，项目负责老师事先做了周密的计划，使这个项目能够顺利开展，但开始上课后，还是碰到不少新的情况。毕竟在东大是首次，不可能一上来就知道全貌，探索是一个必经的过程。可以说这个TLP汉语项目是教师和学生一起创建、不断完善起来的一个新项目。

比如，一上来TLP汉语班并没有建立自己的班级，基础汉语课是和别的二外班级一起上，只有会话和听力强化班是TLP学生单独上。后来考虑到要加强TLP的教学效果和一体感，跟普通二外班级有所区隔，从第二年开始设置了TLP自己的班级，教材也逐步引进中国出版的原版教材，TLP汉语班逐步形成了自己的特色。

在TLP学习汉语，尽管不是汉语专业，但我们的目的是培养将来能够熟练运用英语和汉语，具有国际视野的学生，所以究竟在教学中应该把汉语放在什么位置，有过一段时间的摸索。教师是可以做全套专业教学，但从学生的立场来看，汉语TLP虽然是东大新设置的很有意思的课目，但在他们的所有课目中显然不能说是最重要的，这就产生了一点心理落差，所以需要教师思考如何在不给学生增加太多负担的前提下，帮助学生学好汉语。经过不太久的探索，我们把汉语课定位为副专业，在此认知基础上合理安排力量进行教学。

具体而言，在有限的的时间里，如何有重点地进行汉语教学，这是我们一开始就面对的重要问题，所以边上课边听取学生的建议，在实践过程中摸索适合TLP的教学方法。照原来的设想，我们TLP也应该像外语大学的汉语专业一样，听说读写样样重视，可后来渐渐发觉难以做到尽善尽美，无法全力以赴，因为毕竟学生学习负担很重，除了汉语以外还有很多课目

会話の授業を通して、聞く力と話す力を可能な限り鍛える。一年生の後半からは短い作文を通して、文章力を少しずつ身に付ける試みも始めた。

授業の科目編成は、専任の教員の指導の下で進められ、この五年間基本的に大きな変更はない。前期の一年半は、必ず基礎文法をきちんと勉強した上で、ほかの技能も伸ばすことを求める。最初の一年間を通じてほぼ目標が達成される。二年目からは、更に話す力、読む力及び書く力を高め、すこしずつ中国語「を」学ぶから、中国語「で」学ぶへと方向を切り替える。その助走段階として、TLP中国語で使う教材は、大半は中国で作られた教材が占めている。

学生からのフィードバックに耳を傾けることの重要さも、このプログラムを進める中で、つくづくと感じたことである。TLPを選んだ東大生はもともと選り抜きの学生で、我々が提供するメニューは事前に良く考え抜いたものとはいえ、必ずしも学生の知的欲求を完全に満たせるものとは限らないのも事実である。それはまさに実践の中で、少しずつ修正すべきもので、実際そのようにやってきた。

例えば、聴解や会話のテキストは、基礎体力をつ

要学習。要让TLP学生像专业一样学习汉语并不是很现实的想法，因此就抓住几个重点进行教学。比如在一年级时，先把重点放在发音上面，在发音关过了后，教基础语法，力争在一年的时间里让学生对汉语的基础语法有个大体的掌握，打下扎实基础。同时通过听力和会话课，尽可能地提高他们的能力。最晚在一年级下半学期开始让学生试写短小的文章，逐步提高写作能力。

汉语TLP课程一直在专任教师的指导下编制，这五年里没有大的变动，但每年都会根据实际教学情况有微调。在TLP前期课程期间，需要牢牢掌握基础语法，同时学习并加强其他技能，通过一年的学习大致能够达到目标。从第二年开始进一步提高听说读写能力，逐步让同学们从学习汉语的阶段过度到用汉语学习的阶段。作为过渡阶段的一环，我们逐步增加原版教材的比重，现在已经做到大部分教材使用原版教材，同学们也能够适应。

在教学过程中倾听学生意见的重要性，也是我们在推进TLP汉语项目时觉察到的。因为选择TLP的东大学生本来就极优秀，我们提供的教程虽然经过周密的计划和讨论，但事实上未必能够全面满足学生们的

ける教材として、当然練習を繰り返すことにウェイトを置くもので、そういう意味ではまったく正しい作り方であるが、一部の学生からはもっとレベルの高い勉強をしたい、自分たちの知的欲求にもっとあわせて、授業を進めてほしいとの意見が寄せられたことがある。そういう場合、担当教員がそのクラスの進み具合に応じて、必要な教材を配ったりして対応している。例えば、読み物を増やして、様々な短い文章を自習のテキストとして活用している。

最初からこのプログラムに関わっている教員として、しばらく経ってから、TLP生の交流の場の必要性をうすうすと感じるようになった。また普段から中国語の世界に触れる必要性も痛感しはじめた。そのために、はじめたのが「漢語角」——中国語コーナー、すなわち中国語の会話広場である。月に二回ぐらいお昼の時間を利用して開催し、教員も参加し、会話の相手をしたり、また調整役として、出来るだけ多くの学生が会話に参加できるように工夫している。より効果をあげるために、キャンパスアジアの留学プログラムで来ている北京大学の学生も招いて、交流の輪を広げている。普段TLP生の横のつながりがあまりなく、交流する機会も年に一度ぐらいの懇親会しか場がない。その穴埋めをする機能を、「漢語角」は多少果たせているのではないかと思う。

TLP中国語の生みの親の一人である刈間文俊先生はかつて我々現場の教員に対して、TLP中国語教育に必要なことは、すべて教員が相談して自由に工夫してほしいと指示したことがある。これもまさにTLP独特の気風で、臨機応変に学生のニーズに対応できるところである。そんな中で、工夫したひとつは、TLP図書コーナーである。いままでTLPの予算で購入した図書や中国語の資格試験対策本及び教員

求知欲。这些也是我们在教学实践中发现，并根据情况进行调整的部分。

比如听力和会话教材，本来就是为了给打下听说基础，需要反复练习，这是无可厚非的。但是在训练过程中学生容易感到枯燥也是事实。特别是有些学习极其出色的学生要求学习更多更难的知识。在这种情况下，如何满足学生的要求需要教师随机应变。经过任课教师的讨论，我们根据各个班级的进度和情况，分发课外教材，尤其是阅读材料，让学生使用各种各样的文章来自习，很有效果。

作为从这个TLP项目伊始就参与的一名教员，经过最初阶段的摸索和尝试后，发觉TLP学生需要有个用汉语交流的平台，因为毕竟受环境限制，平时用汉语的机会很少。另外，TLP学生本来横向交流就不多，所有的学生都能参加的TLP联欢会最多也就一年一次，所以希望通过举办一些活动改变这种状况。经过任课教师的讨论，决定开设汉语角。汉语角基本上每月两次，利用午饭时间，教师也参加，不仅陪练，而且协调，尽可能让更多的学生参与到会话中来。为了更好地推动这项活动，我们还邀请利用亚洲校园项目来东大留学的北京大学同学们一起参加，这样提高了同学们学习汉语的积极性，也增进了中日同学间的相互了解。

TLP汉语项目发起人之一的刈间文俊教授曾经对我们教师说，只要是教学需要的都可以尝试去做。这也是我们TLP的一个特点，可以灵活机动地根据学生的要求进行调整，更好地满足学生的要求。比如我们经过开会商讨，开设了TLP图书角。把以前用TLP预算购买的图书和这几年陆续购进的HSK对策教材以及教师的各种汉语书籍放在一处，每周开放两次，供学生利用。做了两年，发觉有效果，因为学生的确有这方面的需求。在学习完了基础课程以后，有些学生

が所有している様々なジャンルの中国語の書籍を一箇所に集めて、週に数回開放し、TLP生に利用してもらっている。実際に二年やってみて、その効果を実感している。中国語をしばらく勉強してから、何か読み物を読みたくなる学生が現れる。そういう場合、どこでそのような書物や資料を探せばいいのか、教員の手助けが必要になってくる。HSKのような中国政府認定の資格試験の対策はどうすればいいのか、そういう相談にも乗れる。

限られた時間の中で、時間を最大限に有効に使って、効果的な中国語教育を提供するという使命を持っているが、五年間の実践を通して、専任のコーディネーターの先生方の指導の下で、すでにかなり安定した形を作ってきた実績がある。ただし、学生のニーズもいろいろと変わっていくかもしれないので、その探索のプロセスは今後も続くだろう。

很想阅读汉语书，但不知道应该读什么。这种时候教师能够提供建议的话，会很有帮助。另外TLP的同学每年都有参加HSK考试的，应该如何参加考试，如何解题，这些同学们也可以在利用图书资料时进行咨询。

总而言之，在有限的的时间里如何最大程度地有效利用时间，为学生提供最好的汉语教育是我们做教师的使命。通过五年多的实践，在专任负责老师的指导下，我们已经摸索出了一套行之有效的教学方法，取得了一定的成绩。当然，今后肯定还可能出现新的情况，需要我们不断做出调整，更好地满足学生在汉语学习各方面的要求。为此，需要我们不断探索下去，及时总结经验教训。

2 後期TLP「東西文明学」の 取り組み

1 思想と批評

EALAI特任准教授 王 前

「東西文明学」の授業は教員が自分の専門を中国語で教える授業である。私が担当する科目は、「思想と批評」という名前で、基本的に東西比較文明という大きな背景を視野に入れて、近現代日中思想文化史について講義している。

当初の授業設計の目標としては、留学に行かなくても、日本国内で中国語を使って、専門的な教育を受けられるようにすることなので、二年間中国語を勉強したTLP生にとっては、少しハードルが高いところはたしかにある。一つは聴解の力がまだ足りず、また専門分野の語彙が不足していることである。そういう問題をどう乗り越えるかが、最初の関門である。

完全に中国語で講義すると、それを理解するには、到底無理なところがあるので、主旨を変えずに、少し調整する必要は否めない。幸いなことに、TLPの授業なので、英語を少し使うことも可能だし、たまには日本語の力を借りることもだめとは言い切れないので、全体としては、何とかして中国語で読んではから議論し、中国語で表現するように学生を励ますようにしている。

具体的な授業の内容に関しては、いうまでもなく、教員が決めるべきことであるが、学生と相談しながら、一緒に授業を作ってきた面もある。一方的に自分の専門分野の話を披露するのではなく、学生が求める知識とは何かを常に考慮に入れなければならないと思う。

一年目の時は、日本と比較しながら、通史的な近現代中国における西洋思想の受容を考察しようという計画を立てて授業を進めた。事前に関連資料を配布して、教員が授業中に背景知識などを説明し、また必

后期TLP「东西文明学」の 実践

思想と批評

EALAI特任准教授 王 前

《东西文明学》的是由任课教师用汉语上自己专业的课程。我负责的是“思想与批评”，每次课程都在东西比较文明的大框架下展开，讲述近现代中日思想文化史。

在设计东西文明学这门课时，就要求做到即便不去留学也能在日本国内使用汉语接受专业教育。对完成了TLP前期课程，学习了两年汉语的学生来说，的确有一定难度。一个是听力理解尚有困难，另外一个就是专业领域的汉语词汇和知识尚欠缺。如何解决这两个问题，是最初遇到的难关。

一上来就完全用汉语讲课，要让同学们做到完全理解，肯定会有一定难度。所以在不改变教学宗旨的前提下，会根据上课同学的水平稍作调整。毕竟是TLP的课，可以使用英语，偶尔也可以日语解释关键词，当然更多的是鼓励学生用汉语阅读讨论，学会用汉语进行表达。

具体授课内容当然是教师决定，但在讲课时也会听取学生们的意见，发挥学生的主动性。新学期伊始，会充分了解学生们的兴趣所在和学术爱好，以便根据实际情况调整自己的教案。在上课时力争避免照本宣科，也不会单从自己的学术兴趣出发，而是尽可能照顾到学生的求知欲。

在第一次上东西文明学“思想与批评”时，按照预定的计划，以日本为参照对象，讲授近代以来中国是如何吸收西方思想的。事先发给学生相关资料，在上课时也讲述了有关背景材料，根据需要也发了英文资料，跟学生一起阅读讨论。语言的障碍并没有想象的那么大，随着课程的进行，学生大多能够适应进度，理解课程并没有很多问题。只是因为平时不接触那样的内容，需要教师照顾学生的知识储备，耐心细致地说明，留给学生充分的时间问问题，一起讨论。一个

要に応じて英語の文献も配って一緒に読んだ。語学の壁は少しずつ克服でき、特に大きな問題にはならなかったが、内容の理解に関しては、やはり普段触れていない内容なので、教員がもっと配慮しながら、進める必要を感じた。授業中、議論をしたり質疑したりして、終わった後は、中国語でレポートを書いてもらって、それなりに成果を挙げることができた。受講生がそれぞれの問題関心に沿って、中国語で個性的な文章を書けたのが印象的だった。

二年目からはすこし内容を変えて、近現代中国の代表的な思想家がどのように、東西文明の衝突と融合を見てきたかに焦点を絞って、彼らの代表的な文章を学生と一緒に読んで、議論した。少人数のクラスだったこともあり、徹底的に議論できて、またその結果を毎回中国語で表現してもらって、上級中国語のレベルに達することと、中国語で新しい分野の知識を学ぶことの両方に配慮した。学生の表現力が見るみるうちに上達したのが大きな収穫だった。

東西文明学の授業を履修するときのもう一つの問題は、後期課程のTLP生は異なる学部に所属しているので、履修するには難しいところがある。これは非TLP生にとっても、同じである。その問題を解消するために、コーディネーターと相談して導入したのが集中講義である。二つのタームの間の数日を利用して開講する。それによって、短期間の負担は多少大きい、非常に集中的に勉強できる利点がある。実践してみたら、それまで考えられなかった人数の受講生が履修してくれた。週末の長時間にわたる授業であるにもかかわらず、参加者はかなり集中して勉強し、激しい議論を戦わせる場面もあった。中国語を主要な言語に、英語と日本語も駆使して、専門分野を超えて、普段は滅多にできない議論と交流も

单元结束后，会让同学用汉语把心得写下来，既能够锻炼他们的写作能力，也可以整理学习的成果。事实证明很有效果，通过几次训练后学生的表达能力有很大的提高，阅读学生用汉语写的感想和评论也是很愉快的经验。

从第二年开始稍作调整，为了改进教学效果，以中国近现代思想家是如何看待东西文明的冲突与融合的为主线，选择他们的代表性论文跟学生一起阅读讨论。由于是小班上课，可以进行严格的阅读理解训练，充分地展开讨论，然后再让学生总结讨论过的内容，由教师修改学生的文章，最后一起讨论，从而收到更好的效果。可以说在讲述东西文明课的同时，也在进一步提高学生的汉语水平。尤其是通过阅读和讨论文献，可以让学生有更好的阅读理解能力，为可能会到中国的大学去留学的同学事先打下一定的基础，事实证明可以缩短他们适应中国大学课程的时间。

在进行东西文明学的教学时会碰到另一个问题，那就是后期TLP的学生大多分布在本乡校区的不同院系，非TLP学生也如此，所以选修驹场的课就有困难，不少同学因此而放弃。在TLP负责老师的指导下，后来采取了集中讲课的形式。在每学期期中考试前后，主要利用周末，集中进行授课。因为时间紧，课程密集，所以对学生来说负担有点重，但是可以高度集中地学习。很多原先无法修课的同学也能参加，事实上选修人数大大超过预期。尽管上课时间最多时长达五小时左右，但同学们仍旧能够集中听讲，积极参加讨论，有时讨论还非常激烈。不少同学事后都反映平时很少有这样的机会跟不同专业的同学一起上课，一起讨论感兴趣的问题，希望还能有这样的授课。

反思已经上了三年的东西文明课，觉得虽然最重要的是让学生能够用汉语上专业课，但同时如何倾听学生的声音，满足他们在知识上的需求，并根据他们

出来たと学生が振り返ってくれたのがとても嬉しかった。

これまでの三年間の東西文明学の授業を総括すると、一番大事なのはもちろん中国語で専門を学ぶことだが、いかに受講生の知的関心に合わせて授業を設計し、進めるのも大変重要だと思う。そのために、担当教員がしっかり準備をし、必要な教材や書物を用意するのはもちろん不可欠である。また一つのセメスターの授業を終えた後、学生からの意見に耳を傾けることも必要であろう。折角履修してくれる学生たちのためには、やはり何かためになることを常に念頭に置きながら、教えるように心がけていこうと考えている。

的要求来设计课程也是极其重要的。为此，教师需要做好充分的准备，选择各种有用的教材和书籍。在一个学期的课程结束后听听学生的感想和意见，也是必做的功课。学生选修一门课程是缘份，需要以学生为中心来构思课程，尽量做到能上一门对学生有益的课，这应该是任课教师始终需要认真思考的一个问题。



2 言語と歴史

TLP特任講師 白 春花

【授業概要】

『東西文明学』において、私の専門領域は「心理言語学」ですので、この授業では、言語の処理はどういう仕組みからなるのか、また、バイリンガルあるいはトライリンガル話者はどのように文を処理しているのか、という問いから始まり、それに関する最先端の研究成果を学生に中国語で発表してもらいます。講義を通じて、中国語で高度な専門知識を身につけるだけでなく、研究を遂行する上でのロジック的な思考を鍛え、かつ適宜議論できることを目標としています。さらに、心理言語学で現在主に使われている実験手法を紹介したり、実験室を見学したり、データ収集がどのように行われているのか、具体的にイメージできるようにしています。最後に、講義を通じて身につけてきた知識を自分自身のことと照らし合わせながら、実験案を提出させています。

【授業内容及び進み方】

授業の内容は、主に、心理言語学基礎知識、研究方法の紹介、文献の輪読及びプレゼンの三段階からなります。

心理言語学基礎知識に関する講義は、心理言語学って一体どういう学問かという問いから始まり、文法を「知っている」ということはどういうことか、人間が「ことばがわかる」あるいは「ことばがはなせる」とき「こころ」の中では何が起きているのか、という心理言語学の中心的な課題を様々な角度から光を当てます。そして、乳児、幼児、成人話者、及び学習者、異なる研究対象ではどのような知見が得られているのか、さらに、日本語、英語、中国語で統語的にどのような点で共通してどのような点で相違しているのか、TLP生のような第三言語話者を対象にどのような研究が行われているのか、研究の紹介だけでなく、その成果と受講者の実際体験と

语言与历史

TLP特任讲师 白 春花

【课程概要】

我的研究领域是语言心理学，因此在《东西文明学》这一课程上，我主要讲解语言心理学是一门什么样的学科，它的主要研究方法是什么，迄今为止有何研究成果等等。围绕语言处理的机制，以及双语或三语使用者句子加工过程，让学生用汉语介绍与之相关的最新研究成果。这样，不仅可以通过汉语获得高度的专业知识，接受研究所需的逻辑思维训练，还能够进行适当且有专业水准的讨论。另外，介绍语言心理学研究中主要使用的实验方法，并让学生们参观实验室，进行具体的实验，使学生们对收集数据过程有所了解。最后，让每一位学生提交一份与句子加工过程相关的实验草案。

【课程内容以及进行方式】

课程内容主要包括三个阶段：语言心理学基础知识，研究方法介绍，文献阅读和发表。

语言心理学的基础知识讲座，从语言心理学是一门什么样的学科开始讲解到语言处理机制的中心课题，从易到难，循序渐进，最后让学生们了解并掌握语言心理学研究语言处理机制的方法。其具体内容涉及到婴儿期，幼儿期，成人，第二语言学习者等不同层面的语言习得以及句子加工过程研究，并以从句歧意句的处理过程研究为中心深入讲解成人和第二语言学习者的句子加工过程的异同。

什么是从句歧意句(relative clause ambiguity)? 在我们研究语言机制的时候有何作用? 例如，“数百位死难者的亲属参加了葬礼”，这个句子有两种解释：一是死难者有数百位，二是参加葬礼的亲属有数百位。没有具体语境限制的情况下，两者皆可。这种从句部分既可以修饰第一个名词，也可修饰第二个名词时，我们称这种句子为从句歧意句。其作用何在呢? 在我们日常生活中，经常会遇到歧意句(ambiguous sentence)。比如“我起来了”，在不同语境中它

照らし合わせて考えてもらうことにしています。

文を理解する初期の段階には構造的選択肢がいくつもあるにもかかわらず、われわれは高速かつ効率的に正しい解釈に到達できていますが、なぜでしょうか。例えば、「我起来了」の場合、どこで区切るかにより、「私は思い出した」と「私は起きたいです」の二通りの解釈が存在します。同じように、「他走了两个小时」も、「走」をどのように解釈するかにより、「彼は二時間歩いた」と解釈できれば、「彼は二時間前に離れた」とも解釈できます。さらに、「数百位死难者の亲属出席了葬礼」、日本語「数百人の死者の遺族らがお葬式に参加した」のような文でも、「死者が数百人」という解釈と「遺族が数百人」という解釈があり得ます。日常では、このような曖昧性を持つ文は頻繁に使われるにもかかわらず、私たちはそれを効率高く解釈ができるということは、我々の「こころ」はいくつもの候補の中からある解釈のみをあらかじめ優先的に選好する傾向が存在することを示しています。そして、このような選好性を生み出すような処理を具体的に動かす情報を特定し、関与する情報やその重み付けを特定することで、人間の文理解メカニズムとはどのようなものなのかという、文理解研究の中心的な課題に光を当てられます。このような選好性を生み出す仕組みを明らかにすることにあたり、関係節の構造的曖昧性構文の処理研究を軸に、心理言語学の研究がどのように行われているのか、具体的な研究を紹介します。各研究の紹介は研究背景、仮説、研究方法、結果、結論の流れで行います。このように、中国語力を向上させるとともに、研究を行う上で欠かせないロジック的な思考の鍛えが得られる中で、ことばの仕組みに対する理解を深めていきます。

その後、研究方法の紹介、特に具体的な仮説を検証可能にしている器材などの紹介、それを実際の体

有不同的解释，即“我想起来了”和“我 想起来了”的两种解释。还有，“两个学校老师过来参加会议”中，“两个”是修饰“学校”还是修饰“老师”，两者皆可。尽管经常遇到诸如此类的句子，我们却能在短时间内有效地解释它，这表明，我们的“心理”对几个候选之间有偏好倾向。这样的偏好倾向是怎么形成的，在具体的句子加工过程中有哪些因素能够影响其偏好倾向。通过解答这些问题，虽然是冰山一角，但对解释人类的语言机制有很大的帮助。之所以从句歧意句为中心，其主要原因是，类似“数百位死难者的亲属参加了葬礼”的句子，在每个语言中都能找到，但其处理过程却不同。比如，日语和汉语的语法结构类似，研究结果却表明日语母语者却解释为“参加葬礼的亲属有数百位”，而汉语母语者则解释为“死难者有上百位”。为何会出现不同的偏好倾向？围绕这一问题，课堂中会举出数十个实际的例子并介绍多个相关研究。每项研究的介绍都是通过研究背景，假设，研究方法，结果，结论流程进行的。通过这种方式，不仅能够提高汉语能力，培养对研究至关重要的逻辑思维，还可以深化对句子结构，甚至语言处理机制的理解。另外，根据TLP学生日英中三语习得情况，讲解中日英三种语言在语法结构上的异同处，从而理解所有已习得语言的语法结构的不同特点对第三语言特别是句子加工过程中的影响。

其次，每项研究中，我们能够设定某些假设，并能验证这些假设，都依赖于特定的研究方法与器材，所以课堂上也会注重介绍及讲解相关的研究方法和器材。该课程内容所设计的研究方法或者器材主要有问卷调查法，被实验者按照自己的节奏解读句子的被实验者自定节奏解读法，眼球运动测量仪，脑波测量仪（EEG），和功能性核磁共振法（fMRI）。有关问卷调查或者被试验者自定节奏解读法，课堂上会依据先行研究设计好实验程序，让所有学生能亲身体验一次具体的实验。除此之外，让学生们参观置放眼球运动测

験及び見学に基づき説明を行います。授業中は、行動研究で主に使われる質問紙調査、参加者自身のペースで文を読み進められる自己ペース読み課題、眼球運動測定方法、そしてヒトの脳機能の非侵襲的測定方法、その中でも心理言語学で多く取り上げる脳波測定（EEG）と機能的MRIについて扱います。まず、質問紙調査方法及び自己ペース読み課題について、先行研究の実験と同じような実験を組み立て、受講者に体験してもらいます。その後、眼球運動測定器材及び脳波測定実験室を実際見学してもらい、心理言語学ではどのように研究データを集めているのか、それについて具体的にイメージできるようにしてもらいます。

最後に、基本的な専門知識及び研究方法を把握した上で、各受講者に担当文献を中国語で発表してもらいます。文献は英語で書かれた雑誌論文で、学期のはじめにすでに各受講者に配布しています。発表は、背景、仮説、研究方法の簡単な説明、結果、結論という流れで行い、内容について、毎回受講者に均等に質問を投げかけます。また、「何が分からないか」「どこが面白いのか」という受講者からの質問の投げかけコーナーも設けます。

【評価方法】

先行研究に基づき、実験案を提出してもらうことになります。実験案に必ず研究背景、仮説、研究方法、予測結果の四つの部分で成り立つことが要求されます。そこで、私が驚いたのは、受講生のみなさんが、実際に中国語で話すときに、日本語より英語の影響が多く現れている原因について、三つの言語の統語的な特徴の類似性の観点からレポートをまとめたことです。

量仪和脳波測量儀の實驗室，能够理解先行研究的实验数据的由来及其逻辑性。

在确保学生们掌握了语言心理学基础知识并大概了解相关的研究方法后，让学生发表各自负责的文献。所有文献都是和课堂内容相关联的研究，而且都选自于语言心理学顶尖级杂志上的研究论文。所有文献都在第一次的课堂上发给学生，以保证有足够的时间来阅读并分析。发表流程必须按照研究背景、假设、研究方法、结果、结论的顺序，发表完后，提出几个问题，让学生们回答，以保证学生们理解研究的结构和内容，并提供学生们提出问题的机会。

【評価】

根据课堂上的表现情况以及学生们提交的实验草案评估，草案内容要求包括背景、假设、研究方法、预测结果等内容。在学生所提交的实验草案中，让我惊讶的是，有个学生竟然从日语、英语、汉语的语法结构的异同角度分析为何日语母语者处理汉语时受英语的影响远比日语多的现象。



3 国際社会科学

TLP特任講師 李 彦銘

私が担当する講義の副題は、戦後日中関係史であり、1950年代から2000年代までの日中関係を扱っています。開講前は授業の形式をどうするかでいろいろ悩みましたが、結局学部や大学院ゼミの輪読形式を参考しながら、講義との組み合わせにしました。

毎回の授業のためには、必読の論文を一本あるいは専門書の一章を指定し、さらに参考用の論文をほかに二つぐらい提供しています。授業のときは、まず必読論文を読んだ上でA4一枚ぐらいのサマリーを提出し、サマリーに基づいて論文の内容を口頭で要約してもらったり、疑問に思った点を話してもらったりして、そのあと講義に入る形をとっています。読む材料として取り上げているのは、中国語と日本語は中心であるが、英語の資料（あるいは中国語、日本語論文の英語版）も入っています。現在学界で主流となっている論点を提起した名著／名論文以外に、いまの研究における規範やレベルからすれば、論文と呼ぶよりは回顧録と呼んで相応しいものなども選ばれています。それは、論文／小論文の書き方の良い例、悪い例として示すという意味だけではなく、特に中国では国際政治が学科としてどのような飛躍や発展があったのか、現実政治とどのような密接に関係しているのかも、論文の書き方の変化を見るだけでも大変大きな意味があるからです。

つまり、この講義を通じて達成したい目標は、単なる知識の習得と中国語で読む・書く・話すことではなく、社会科学系の論文の基本的な書き方から学科の歴史まで少しずつ理解してもらいたいということです。学問の系譜を辿ることは非常に重要で、特に国際政治や日中関係の研究においては、研究テーマがどのように提起されたか議論がどのように移り変わったのかは、常に現実政治と深く関係しています。これによって、近代的国民国家（nation-state）

国際社会科学

TLP特任講師 李 彦銘

这门课的副标题是战后中日关系史，主要覆盖的是1950年代到2000年代初的中日关系。开课之前对于授课形式思考了很多，最后决定参考本科和研究生课程中的研究班（seminar）形式，每周指定阅读材料，用阅读-课上讨论结合课上讲义的形式来进行。

因此作为作业，每次上课之前都会指定一篇必读的论文或者某专著的一章，并提供两篇有关联的文章选读。上课时先由学生提交必读材料的阅读报告（A4一页），并根据阅读报告来进行口头表述，提出一些自己阅读过程当中碰到的疑问。在这个环节完成之后，再开始每次的讲义。选取的论文包括汉语、日文、以及部分英文材料。不仅包括一些出自名师的经典论述，也选了一些从今天的论文写作规范来看并不是那么成熟的文章（特别是汉语材料）。第一，旨在通过比较来加深对论文写作的理解，从正反两方面提供论文写作的范例；第二，则是为了帮助学生了解学科发展的历史。尤其在中国，可以说改革开放以后短短的40年间，国际政治学科的发展及其研究水平的提高是飞跃性的，同时又是与中国的现实政治密切相关的。

也就是说，本课程的目标不仅是对于知识的学习和对汉语运用能力的提高，还要作为通识课程帮助学生理解国际政治/战后中日关系史研究本身与现实政治之间的互动，使学生能够对国民国家（nation-state）主导下的国际政治体系有更深刻的体会，并能尝试用一种超越国民国家的视角看待、分析中日两国之间的政治/外交议题，或者思考这种视角的有效性。

由于开课刚刚一年，第一年（2017年度）的注册人数也只有5人，但他们的学习意愿给我留下了深刻的印象。各位同学的学科背景虽然不同（物理学1名，英文1名，PEAK2名，硕士生1名），有些人也没有留学或全汉语环境下学习的经验。但都能做到对文献的精读，对课上问题自发的探索与思考，这些努力也都反映到了他们的期末论文中。而1名中国同学

の存在を確認してもらい、国民国家という枠組みを超えるような思考は今後可能かどうか・必要かどうかも考えてもらいたいです。

まだ開講して1年しか経たず、2017年度履修人数もわずか5名でした。初回の授業に来て課題の完遂が難しいと判断した学生もいたので、私も少し心配し難易度を下げる準備をしましたが、結論から言って履修したみなさんは非常に強い学習意欲を持っていました。専門がそれぞれ違って（物理学1名、英文1名、PEAK 2名、修士課程1名）、全員留学経験／中国語環境で学ぶ経験がある人ではありませんが、とにかく一生懸命文献を読もうとし、授業で触れた論点について自ら調べたり考えたりしていました。その成果は、みんなが書いた期末の小論文に如実に反映していました。中国人学生が1名いたおかげで、日中それぞれの考え方や議論の比較も常にできました。メンバーに恵まれて当初のやや高めの授業目標が達成できた感じもありますが、今後もいいメンバーが集まるようにと心から願っています。

的加入，也让课上讨论更加活跃，让中日思维方式能够不停地碰撞、对比。应该说是这5名同学所形成的团队，帮助我实现了课程目标/理想，也让我更期盼今后仍能有如此的幸运。



4 環境と身体

教養教育高度化機構特任准教授 白 佐立

私は台湾の戦後都市史・建築史を研究している。文献も使用するが、主な研究方法は都市という環境の中を歩き回り、まちの人々から様々な話を聞かせてもらうことを通して、彼ら・彼女らが経験してきた暮らしの様子を書き出していく。そこで重要なのは、相手の使い慣れた言葉を話すことである。台湾では、都市部では台湾華語が話されることが多いが、人によっては台湾語や客家語を話した方が（私は台湾華語と台湾語しか話せないが）、親近感が生まれやすく、より多くのことを教えてもらえる。中国なら、さらに複雑だ。同じ中国語を共通語とする人々でも、出身地や教育などにより、語彙、発音から手振り身振りまで変わってくる。このような人々とのようにコミュニケーションを取ればよいだろうか。

私が担当している授業「東西文明学——環境と身体」では、履修者に（広義の）中国語を使ったコミュニケーション実践してもらい、さらには所謂「中華世界」の多様性と多元性を考えてもらうため、開講1年目は「横浜中華街フィールドワーク」、2年目は「映画で考える、台湾の生活文化」、そして3年目は「新チャイナタウン（埼玉・西川口）フィールドワーク」というテーマで講義した。

「横浜中華街フィールドワーク」では、横浜中華街の住民の生活実態を理解してもらうことを目的とした。一般にチャイナタウンとは、兩岸四地及びシンガポール以外の国における華人・華僑が集住する市街地を指すといえる。横浜中華街は19世紀半ばに形成され、その都市空間や人々の生活様式は彼らの「故郷」の特徴を保持しつつも、長い時間をかけて「日本」と融合してきた。他方、1970年代以降は観光地化の進展により、ある特定の「中華」の要素を強調した街づくりが行われることで、現在の〈観光地としての横浜中華街〉が形成され、結果日本屈

环境与身体

教養教育高度化机构特任准教授 白 佐立

私の研究領域は台湾戦後都市史・建築史。使用文献進行研究の同時、我主要的研究手法は漫步在都市中進行觀察、透過和街上的人們聊天來建構出他們所經歷過的生活經驗。無須贅言，在這樣的研究手法中用對方習慣的語言和詞彙來進行訪談相當重要。在臺灣，都市裡大部分的人都能夠使用台灣華語，但也因人而異。有時，說台灣話或客家話（雖然我只會說台灣華語和台灣話）會更容易拉近人與人的距離，讓對方更安心地告訴我更多他們過去的人生。在中國，狀況則更加複雜。即使同為以普通話作為共通語言，隨著生長環境和背景的不同，個人所使用的語彙、發音，甚至是肢體語言都不盡相同。面對這樣的人們時，應該如何交流溝通呢？

在我所開的「東西文明學——環境與身體」課程中，為了讓參與同學能有實踐以（廣義的）漢語來進行和人交流溝通，並思考所謂「中華世界」的多樣性及多元性，每一年的課程內容不同；第一年為「橫濱中華街田野調查實習」、第二年為「從電影思考台灣生活文化」、第三年為「新中華街（埼玉・西川口）田野調查實習」。

在「橫濱中華街田野調查實習」以理解橫濱中華街居民的生活實態為授課目的。一般而言，中華街是指在兩岸四地和新加坡之外的華人・華僑的聚居地。橫濱中華街形成於十九世紀中期，那裡的都市空間和居民的生活樣式一方面保有個人「故鄉」的特徵；同時，在形成後至今的年月裡，他們也逐漸和「日本」融合。而一九七〇年代後，在觀光地化的潮流中，橫濱中華街的造街工程強調特定的「中華」元素而形成現在的〈觀光名勝——橫濱中華街〉，並成為日本首屈一指的觀光區。現在的橫濱中華街雖然被視為觀光區，然而它同時也是人們日常生活的場所。參與田調的同學們以注目參雜在橫濱中華街居民生活中的「日本」與「中華」這樣的視角來進行觀察及訪談，實際捕捉到各種橫濱中華街的生活情形。惟在施行過程中，

指の観光地となるに至っている。このように現在の横浜中華街は観光地としてのイメージが強いが、当然のことながらそこは人々が日々生活する場でもある。では、彼らは普段どのような暮らしをしているのだろうか。この講義では、横浜中華街の人々の生活における「日本」と「中華」という視角から、〈生活の場としての横浜中華街〉のあり方を、フィールドワークを通して考察した。しかし、問題もあった。それは中国語を使ってフィールドワークをすることが困難なことだった。横浜中華街の「老華僑」やその子孫は当然中国語よりも日本語が日常的な言語になっており、「新華僑（主に1980年代以後移民してきた人々）」が話す中国語の発音は履修者にとって聞き取りが困難だったからである。それでも、講義での討論とフィールドワークの中で身近にいる華僑・華人たちの日常生活や世界観に対する認識を深められたのではないかと思う。

「映画で考える、台湾の生活文化」では、履修者に台湾映画を媒介として、戦後台湾の豊穡かつ複雑な生活文化を掴む糸口を探ってもらった。1980年代の「台湾ニューシネマ」と呼ばれる作品群以後、台湾映画はそれまでの映画と一線を画し、作風が写実性を増し、台湾の歴史と社会を積極的に描写するようになった。また、ここ10年程の台湾映画はさらに生活文化や現代に生きる人々の生活を取りあげようようになってきている。講義では、台湾の人々の生活文化を読み解くことを可能にするような映画を取り上げ、事前に必要な知識をレクチャーした上で、映画のクリップを見ながら、それぞれのシーンについて解説し、私自身のフィールドワーク調査内容を加えながら、台湾の人々の日常生活を「住」、「食」、「民間信仰」に焦点をあてて議論した。この講義を通して、履修生たちが等身大の「他者」として台湾の人々を理解する契機となったのではないかと考え

以漢語進行田調の機会不多。横浜中華街の「老華僑」或他們的子孫，在日常生活中比起漢語他們更習慣使用日文；而新華僑（指一九八〇年代後移民至日本的人們）的漢語發音對參與學生來說過於困難。即使如此，在田調與課堂討論的過程中，參與同學仍然加深受對華僑・華人日常生活及世界觀的認識。

在「從電影思考台灣生活文化」則企圖讓修課同學以臺灣電影為媒介，捕捉戰後臺灣豐富且複雜的生活文化。一九八〇年代之後，被稱為「臺灣新浪潮」的電影作品和那之前的作品風格迥然不同，作品風格注重寫實，並積極地描寫臺灣的歷史和社會百態。這十年的臺灣電影更將一般庶民的生活文化及同時代的題材作為拍攝主題。課程針對七部臺灣電影，在課堂中先講解需要的知識，再利用部分片段來對臺灣日常生活中的「住」、「食」、「民間信仰」進行討論。透過對電影中人物的深入解讀，同學們如實地對台灣人得到初步的理解。

（本文寫作時此課程尚未實施）在「新中華街（埼玉・西川口）田野調查實習」中，針對這十年之間外國人居民急速增加，特別是中國人聚集的西川口進行田野調查。其目的為考察並理解住在西川口的中國人們的生活實際情形。西川口地區遍佈著漢語看板、可以吃到道地的各式中國菜、只說漢語也可以生活；是一處會讓人錯以為身處於中國的場所。在這堂課中，參與同學透過聽取居民的生活史及在不打擾做生意的情況下去體驗一日店員的方式，積極地參與居民實際的日常生活以理解在日本生活的中國人的生活細節。在此過程中，同學們由親身體驗來思考中國人在異國生活中的智慧和技術。

以上的課程皆為提供與課同學在實際的場面中以漢語進行溝通的嘗試。在其根底，我希望與課同學能在田調或討論中，透過〈邂逅（包括電影中的人物）真實人物〉來增加對他人的認識。這樣的〈邂逅〉不但可以培養對和自己不同的人們的想像力，也是建構

ている。

そして、(本小文執筆時点ではまだ開講していないが)「新チャイナタウン(埼玉・西川口)フィールドワーク」では、この10年ほどの間に急激に外国人住民が増加し、中でも中国人が集まってきたことが注目されている西川口に着目し、中国人が営む商店のフィールドワークを通して、西川口に暮らす中国人の生活の実態を考察、理解することを目指す。西川口に行けば、まるで自分は中国にいるのかと感じられるほど、中国語の看板に溢れ、本場の中国料理が食べられ、中国語で生活できる。講義では、履修者たちは西川口で暮らす中国人たちに彼ら・彼女らのライフストーリーの聞き取り、かつ商売の邪魔にならなければ、1日店員として参与観察してもらい、積極的に住民の日常生活に関わることを通して、日本で生活する中国人の日常を捉えてもらうことを狙う。このプロセスを通して、中国人はどのような知恵を用いて異国で生きているか、その彼らの実践に触れてもらいたいと思う。

以上、いずれも冒頭で述べた中国語を用いたコミュニケーション実践の試みである。この一連の試みの根底にあるのは、履修者たちにフィールドワークや議論などの実践的な過程の中で、〈(映画の登場人物を含め)生身の人間との出会い〉を通して自らの他者理解を深めてもらいたい、という私の思いである。そのような〈出会い〉こそが、他者への想像力を培い、より豊かな世界観を育む土台になると信じている。

個人豊富世界観的基礎。



第3章

データ編

数 据 篇

1 年度別履修者・修了者数

历届选修人数、结业人数

	履修者数						修了者数					
	1年生			2年生			前期			後期		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
2013年度	12名	33名	45名									
2014年度	41名	17名	58名	12名	7名	19名	12名	6名	18名			
2015年度	36名	25名	61名	33名	15名	48名	20名	13名	33名			
2016年度	49名	12名	61名	16名	19名	34名	10名	15名	25名	0名	0名	0名
2017年度	50名	22名	72名	31名	10名	41名	22名	6名	28名	0名	1名	1名
2018年度	42名	24名	66名	47名	21名	68名						

2 メディア掲載実績

传媒报导

2013年4月13日	「朝日新聞」夕刊
2013年5月12日	「読売新聞」朝刊
2013年6月7日	「朝日新聞」朝刊
2013年6月10日	「大学新聞」
2014年7月22日	「東京大学新聞」
2014年11月13日	「東洋経済オンライン」
2015年3月	「日中経協ジャーナル」3月号
2016年1月29日	「読売新聞」朝刊
2018年6月1日	「教養学部報」601号

3 沿革

2012年7月	日本学術振興会のグローバル人材育成推進事業への応募課題として、英語成績上位者を対象とする新しい中国語コースの設置に関する検討が始まる。
2012年9月	本学が独自プログラムとして「中国語スーパー・インテンシヴ」を推進することを決定。
2012年11月	英語の習熟度別クラス実施に併せて、英語の優秀な学生をトライリンガル人材に育てるためのプログラムを2013年度より発足させること、最初は中国語から始めることが決まる。
2012年12月	新プログラムを「英中トライリングアルプログラム」、略称「TLP」と呼ぶようになる。特任教員2名の公募開始。
2013年4月	「英中トライリンガル・プログラム(TLP)グローバル中国語」履修スタート。クラス化の構想が手続き上間に合わず、暫定実施となる。新入学生のうち、既修英語の「教養英語」でG1クラスに所属し、かつ初修中国語を履修している者から75名を募集。
2013年5月	第一期生45名の履修が確定。
2013年8月	東京大学リベラルアーツ・プログラム(LAP)主催による南京大学サマースクールが初めて実施される。同サマースクールは2年生を対象とするが、まだTLP生は1年生のみなので、初修中国語を履修する一般の2年生から20名を募り、19名が参加。南京大学にて3週間の中国語トレーニングを受ける。
2013年9月	後期TLP「東アジア教養学」の検討が始まる。
2013年10月	特任教員1名増員のための公募開始。
2014年4月	TLP生のクラス化が実現し、同年度より本格実施となる。定員を60名とし、58名の履修でスタート。
2014年5月	後期TLPの開講母体となる「TLP委員会」が初招集される。
2014年7月	後期TLP「東西文明学」検討開始。
2014年9月	後期課程生向け「北京研修——深思“北京”」実施。参加者は6名。この時は「北京サマースクール」と称していた。
2014年9月	後期TLP特任教員1名の公募開始。
2014年10月	後期TLP中国語科目を2年生の内定生を対象に開講。
2015年1月	第一期生修了式(2013年入学生)を挙行。18名が修了認定を受ける。
2015年4月	後期TLP「東西文明学」の履修開始。
2015年5月	TLPの多言語化に関する検討が始まる。
2016年1月	1年生を対象にシドニー大学ウインタースクールを実施。
2016年4月	フランス語、ドイツ語、ロシア語でTLP開始。
2017年3月	1年生を対象に台湾研修を実施。
2018年2月	後期TLPから初の修了認定者。
2018年3月	「キャンパスアジア」の一環として北京スプリングプログラムを実施。
2018年4月	韓国朝鮮語でTLPがスタート。

編集・執筆（TLP中国語教員）

- 阿古 智子（東京大学大学院総合文化研究科准教授・前期TLP中国語コーディネーター）
石井 剛（東京大学大学院総合文化研究科教授・後期TLP中国語コーディネーター）編集責任者
伊藤 徳也（東京大学大学院総合文化研究科教授・LAP執行委員）
鄧 芳（東京大学教養学部グローバルコミュニケーション研究センターTLP特任准教授）
白 春花（東京大学教養学部グローバルコミュニケーション研究センターTLP特任講師）
李 彦銘（東京大学教養学部グローバルコミュニケーション研究センターTLP特任講師）
王 前（東京大学教養学部東アジアリベラルアーツイニシアティブ特任准教授）
白 佐立（東京大学教養学部教養教育高度化機構国際連携部門特任准教授）
菊池 真純（東京大学教養学部グローバルコミュニケーション研究センター後期TLP特任准教授）
-



表紙の写真について

隋の陸法言が編纂した最古の韻書『切韻』（仁寿元年、西暦601年）の写本。唐代のものとされる。写真は20世紀初めに敦煌で発掘されたもの。

TLP中国語～5年間の軌跡～

- 発行日 2019年1月16日
編集・発行 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属グローバルコミュニケーション研究センター
印刷 〒501-2517 岐阜市三輪ぷりんとびあ3 株式会社コムラ
-

散反一

姑

婦名在河米行
公謀反一

餐

飯也
取反一
無沫子

藥

院安散
反一

養

飯也
反三

痒

反一

澆

洗滌
水

鱗
魚
系上

橡
木

犇

馬而

犇

犇
人祭文反

犇

膈
膜

柄

膜松

柄

柄

柄

柄

柄

柄

魚而
反一

磳

凡石凌物
州河

磳

磳

磳

磳

磳

磳

鑿

屬中
反一

鑿

鑿

鑿

鑿

鑿

鑿

鑿

鑿

亨

大者
庚反

亨

亨

亨

亨

亨

亨

亨

亨



Trilingual Program